

# 平成16年度老人保健健康増進等事業報告書

(介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業)

介護家族から専門職まで人材育成のための  
研修システムと教材開発に関する研究

## 「Web 学習機能を使用した 痴呆介護指導者学習支援事業」

### 報 告 書

平成17年3月

社会福祉法人 浴 風 会  
認知症介護研究・研修東京センター  
(旧 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター)

はじめに

平成 16 年度は、認知症ケアにおいて、エポックメイキングとなる年であったといえます。それは、「痴呆」という名称が「認知症」という名称に変更になったことです。名称変更の背景には、「痴呆」という名称が、侮蔑感を感じさせる表現であること、「痴呆」の実態を性格に表していないこと、早期発見・早期診断等の取り組みの支障になることといった理由が指摘されます。この理由を受け、「認知症」という名称に変更されたのです。

名称が変更されたことで何が変わるのか、と考える方々もいるかと思いますが。これは「変わる」のではなく「変えていく」ことが大切です。「痴呆」が有していたマイナスのイメージを払拭し、正しい理解、偏見のない理解がなされていくことが重要なのです。つまり、名称が変わっただけではなく、名称変更に伴い認知症ケアの考え方も、より良い方向に変わっていくことが重要です。その新たなスタートの年が、本年度であったといえます。

高齢者痴呆介護研究・研修センターも、平成 17 年 4 月より「認知症介護研究・研修東京センター」と名称変更がなされます。名称変更に伴い、より一層認知症ケアの質の向上と発展に寄与すべく、努力していく所存です。

ここに、平成 16 年度老人保健健康増進等事業のうちの介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業による報告書をお送りします。

本報告書の中で、一部名称において「痴呆」という表現を使用している場合がありますが、事業申請名称のためにそのような表記になっています。本文中は「認知症」と名称を改めて表記していますことご了承ください。

平成 17 年 3 月

## ＝目 次＝

本事業について .....	1
第1部 Web 学習の施行と結果 .....	3
1.Web 学習の目的 .....	3
2.Web 学習の教材の概要と学習の流れ .....	3
3. モニターアンケート結果 .....	8
4. Web 学習試行の成果と今後の課題 .....	21
第2部 システムの構築 .....	23
1.システム開発の目的 .....	23
2.システムの名称 .....	23
3.システム的环境 .....	23
4.システムの機能 .....	24
5.システム運用結果 .....	31
6.システムに関する受講調査結果 .....	34
第3部 委員からの提言 .....	41
1. Web 学習の可能性～添削講師としての関わりより～ .....	41
2. Web 学習の有効活用のために～目的の明確化と学習展開の工夫～ .....	44
3. Web 学習の可能性と限界～何ができて、何ができないのか～ .....	47
4. Web 学習の可能性～新たな学習の機会と情報の手段として～ .....	50
5. 添削機能の活用～受講生、添削者協働による学習内容の立案・企画を～ .....	53
6. Web 学習の可能性～Web 機能を活かした指導者支援のツールとして～ .....	57
第4部 全体総括－Web 学習の課題と今後の方向性 .....	61

## 本事業について

平成 13 年度から実施されている「痴呆介護実務者研修」のカリキュラムは、平成 17 年度から、自治体の体制が整い次第、順次「認知症介護実践者研修」カリキュラムに移行していく予定である。

認知症介護指導者に関しても、平成 16 年度から「フォローアップ研修」が開始されている。

認知症に関する理解は社会的にも促進されてきており、認知症ケアにおける研修のニーズも高まってきているといえる。しかし、そのニーズに比して、研修の機会はまだまだ十分とはいえない。

このニーズに答える研修制度や研修カリキュラムの開発は、急務の課題であるといえる。

### 1. 本事業の目的

そこで本事業は、認知症介護研究・研修センター3 センター（大府・仙台・東京）のホームページである「認知症介護情報ネットワーク（通称：DCnet）」の機能の一つである Web 学習機能を使用し、新たな研修の機会となるシステムの構築と有用性の検証を行うことを目的とする。

特に本年度は、Web 学習のシステム構築を主目的とし、認知症介護指導者の協力の下、試験運用を行い、実施環境の確認と有用性を検討することとした。

### 2. 本報告書の構成

本報告書は、はじめに、認知症介護指導者に実施した研修カリキュラムの実施過程と有効性の検証を述べ、つぎに、Web 学習システムの構築ならび運用状況の過程とその有効性の検証を述べる。そして、本事業の委員による事業の成果と課題を示し、最後に全体の総括として、Web 学習の課題と今後の方向性を示した。

## 第1部 Web 学習試行と結果

### 1.Web 学習の目的

#### 1-1.目的

DCnetのWeb学習を活用して、痴呆介護指導者に対して痴呆介護実務者研修の新カリキュラムの内容を学習するための研修を実施する。Web学習を活用した通信教育による痴呆介護指導者の学習支援のシステムの構築を目的とする。

#### 1-2.調査研究のねらい：

痴呆介護指導者から、モニターを募集し、Web学習を試験的に実施し、以下の効果を測定することをねらいとした。

- 1) 痴呆介護情報ネットワーク（通称：DCnet）のクローズサイトにある「Web 学習機能」の試験的運用により、本格運用の可能性を検証すること。
- 2) 「Web 学習機能」が、痴呆介護指導者へのフォローアップ研修の機能として有用であるかどうかを検証する。

### 2.Web 学習の教材の概要と学習の流れ

#### 2-1.Web 学習設定過程

##### 1)本事業委員会の開催

本事業の委員会を設立し、合計 4 回の委員会を開催した。

委員会開催日は以下のとおりであった。

第 1 回委員会 平成 16 年 10 月 29 日

第 2 回委員会 平成 16 年 12 月 10 日

第 3 回委員会 平成 17 年 1 月 21 日

第 4 回委員会 平成 17 年 3 月 18 日

##### 2)委員会における教材の検討過程

委員会において、本事業の Web 学習の教材内容の検討を行なった。

当初案は、

学習期間：6 週間

学習教材：2 教材

- ・効果的な講義・演習に関するビデオを使用した教材
- ・認知症介護実践者研修カリキュラム作成に関する教材

協議検討の結果、

- ・6 週間で 2 教材は教材の量が多い。
- ・カリキュラムに関する教材は、課題量が多いこと。
- ・カリキュラムに関する教材は、教材提示が紙ベースになり、今回の Web 機能の確認には不向きである。
- ・1 教材をじっくりと取り組んでいくことが望ましいのではないかと。
- ・教材の内容の確認が主目的ではなく、Web 学習の展開が主目的なので、視覚教材がより望ましい。

等の理由より、「効果的な講義・演習に関するビデオを使用した教材」の 1 教材とすることとした。

## 2-2.教材の概要

### 1)ビデオ教材のテーマ

本教材に使用したビデオ教材のテーマは、平成 16 年度の認知症介護指導者フォローアップ研修で実施された「効果的な講義・演習に関する研究授業」を題材とした。

### 2)教材のねらい

- ・ねらい

受講教材のテーマは「痴呆介護実務者研修における効果的講義・演習の展開を学ぶ」であった。

### 3)教材の内容と課題テーマ

- ・ビデオ教材の内容

平成 16 年度「痴呆介護指導者フォローアップ研修」で行なわれた「痴呆介護実務者研修における効果的講義・演習」を教材とした。

教材使用に際しては、フォローアップ研修に参加した指導者から、文書による承諾を得て使用した。

ビデオ教材の時間は約 90 分の内容であった。

・課題 1

痴呆介護指導者として演習の企画・運営から、実際の講義・演習の実施に当たって大切にすべき点と考えること（または大切にしていること）、注意すべきこと（または注意していること）についてまとめる。

・課題 2

研究授業(ビデオ教材)をみて、課題 1 でご自身が挙げた 10～20 項目の「演習で大切にすべき点」、「演習での注意点」一つ一つと照らして、痴呆介護指導者としての演習のあり方について□良かった点、□課題点、□具体的改善案を検討して、課題 2 ワークシートにまとめる（以下に課題 2 ワークシートを示した）。

課題2ワークシート

映像教材で実演されていた演習はこんなところが良かったです！

・例：動きの見える受講生の名前を呼んで、和やかに確認ができていた。(10)  
課題1で自分が記入した回答の何番に当てはまるか番号を記入する！

この演習にこんな工夫や改善を提案します！

例：

・意識的に受講生の理解の確認をするタイミングが多く、流れが途切れやすいので、説明の理解について受講生の様子を確認するタイミングをあらかじめ決めておくといいいのではないのでしょうか。  
(15)

↑  
課題1で自分が記入した回答の何番に当てはまるか番号を記入する

### ・課題3

課題1・課題2を踏まえて、研究授業の内容を、実践可能な企画書の改良案としてまとめなおす（教材資料1「課題3ワークシート1」、教材資料2「課題3ワークシート2」参照）。

## 2-3.学習の流れ

### 1)学習の日程

学習の日程は、以下のとおりであった。

- ・スクーリング：平成17年1月28日（金）午後2時～午後5時。

Web学習の事前説明会ならび本事業の評価のためのアンケート調査を実施するために行った。

- ・Web学習期間：平成17年1月31日（月）～平成17年3月11日（金）の6週間。



自宅において、Web による学習を行った。

- ・モニタリング：平成 17 年 3 月 18 日（金）午後 2 時～午後 5 時。

Web 学習の最終評価ならびに本事業の評価のためのアンケート調査を実施するために行った。

## 2)カリキュラムの流れ

課題 1・2・3 の学習の流れを以下の図に示した。

課題の進め方

科目1 実務者研修講義・演習の評価				
日付	学習の進め方	課題	提出	添削
2005/1/31	課題1について、2/6までに回答を提出してください。	課題1		
2005/2/6	課題1の回答期限		課題1の回答	
2005/2/7	課題2について、2/14までに回答を提出してください。	課題2		
2005/2/14	課題2の回答期限です。		課題2の回答	
2005/2/15	2/15～2/20の期間で課題2の添削を行い、クラスルーム上で他の受講生に公開します。この期間、他の受講生の成果物や課題の添削結果を踏まえて課題1, 2を再検討し、その結果を2/21までに提出してください。			課題2の添削
2005/2/21	課題1, 2の再検討結果を回答してください。		課題1, 2の回答	
科目2 実務者研修講義・演習の企画				
日付	学習の進め方	課題	提出	添削
2005/2/21	課題3について、2/28までに回答を提出してください。	課題3		
2005/2/28	課題3の回答期限です。		課題3の回答	
2005/2/28	2/28～3/7の期間で課題3の添削を行います。			課題3の添削
2005/3/7	3/7～3/13の期間、他の受講生の成果物や課題の添削結果を踏まえて課題3を再検討し、その結果を3/13までに提出してください。		課題3の回答	
2005/3/14	課題3は本日で終了です。これで「痴呆介護における効果的な授業開発」の学習を終了します。			

### 3)課題提出と添削方法

課題提出は、Web 上で添付ファイルで提出する形を取った。モニター全員の提出後に、課題内容を全員が閲覧できるように「成果発表の場」を設けた。

添削は、課題 1 ならびに 2 と課題 3 に添削者を設定した。担当は本事業の委員が担当した。

添削方法は、課題を添削者が添削をし、添付ファイルにてモニターへ結果を返す方法とした。

### 4)モニターの募集

モニター募集人数は、大府・仙台・東京センター各 4 名、合計 12 名を予定した。公募ならびに、各センターからの推薦によりモニターを募集した。

モニター募集の条件は、本報告書第 2 部の「3.システムの環境」を満たす環境を自宅に有すること、スクーリングとモニタリングに参加可能なこと、本研究事業に関する調査へ同意と協力ができることとした。

その結果、大府センター4名、仙台センター2名、東京センター4名の計 10 名の協力を得た。

### 5)スクーリングの実施

平成 17 年 1 月 28 日(金)午後 2 時から午後 5 時の時間で、スクーリングを実施した。10 名のモニター中、9 名が参加した。1 名は事情により欠席となった。

Web 学習の概要説明、協力同意、アンケート調査を実施した。

### 6)モニタリングの実施

平成 17 年 3 月 18 日(金)午後 2 時から午後 5 時の時間で、モニタリングを実施した。10 名のモニター全員が参加した。

アンケート調査、Web 学習受講に関するヒアリング調査を実施した。

## 3.モニターアンケート結果

### 3-1.目的

Web 学習に参加したモニターに調査を行なうことにより、本事業の成果を明らか

にする。

### 3-2.対象

本事業のモニターに協力参加した痴呆介護指導者 10 名であった。  
男性 5 名、女性 5 名であった。

### 3-3.方法

スクーリング時、ならびにモニタリング時にアンケート用紙に記入を依頼し、その場で回収した。

### 3-4.アンケート項目

アンケート項目は以下のとおりであった。

#### 1)スクーリング時アンケート

- ・ モニターの基本属性
- ・ 痴呆介護実務者研修への関与状況
- ・ Web 学習への期待
- ・ 現在の現任者としての研修状況と課題 など

#### 2)モニタリング時アンケート

- ・ Web 学習への満足度
- ・ 現在の現任者としての研修状況と課題
- ・ Web 学習の参加状況、Web 学習内容の評価 など

### 3-5.結果と考察

#### 1)モニターの背景

10 名のモニターの背景として、表 1 に専門職としての経験年数ならびに認知症介護の経験年数を示した。平均 10 年以上であった。次に、表 2 に通信教育の経験

の有無、Web 学習の経験の有無を示した。この教育・学習内容は、福祉の如何を問わなかった。半数が通信教育の経験を有していた。

## 2)痴呆介護実務者研修への関与

表 3、表 4 に痴呆介護実務者研修（平成 17 年 4 月からは、カリキュラム内容が刷新され「認知症介護実践研修」と名称が変更になる）への関与の内容を示した。

10 名全員が何らかの形で指導者として実務者研修に関与していた。

表1 モニターの背景

高齢者福祉の経験年数(年)	13.0
認知症介護の経験年数(年)	11.0

表2 モニターの背景2

	ある	ない
通信教育(放送大学等を含む)の経験	5人	5人
Web学習の経験	0人	10人

表3 痴呆介護実務者研修への関与

	人数	%
年間のすべての研修に関与している	7	70
年間の何回かの研修に関与している	3	30
ほとんどもしくはまったく関与していない	0	0

表4 痴呆介護実務者研修への関与の内容

	人数	%
企画準備の段階からすべて関与している	7	70
企画準備の段階のみ関与している	0	0
研修時の講師、演習補助等としてだけ関与している	2	20
その他	1	10

### 3)Web 学習受講動機

表5 に受講動機を示した。

普段に学習する機会が少ないため、この機会に学習をしようという意欲の  
高い受講動機が認められた。

表5 受講動機

<p>参加させて頂くことで新しい刺激を受けて、また仕事や研修に活かしていきたいと考えました。他の指導者の方々がどんな形で普段連携されているか、等も参考にさせてもらい「フォローアップ」してもらえれば、と思います。</p>
<p>こういう機会がないと、本腰をいれて勉強できないから。自分を追いつめるためにも受講しました。性格的に1人でコツコツできないので、皆さんと一緒にがんばれる。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・どんなものか関心がわいた。</li><li>・自分にむちうつため。</li><li>・東京に来たかった。</li></ul>
<p>痴呆介護実務者研修の内容がややマンネリ化の傾向にあると感じている。GHを対象とした基礎過程において、再度考えてみた。※研修においても、職場での実践においても、最近「迷い」が多いので(情報量が多すぎるからかもしれませんが)</p>
<p>今後われわれの地域で認知症を介護に取り組んでいる若者がWeb学習を利用し資質を上げていただきたいと願う。</p>
<p>痴呆介護指導者としての勉強の場があまりないためチャンスと思い受講を希望致しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・可能性(様々な)があると思ったから</li><li>・おもしろそうだったから</li></ul>
<p>今の自身の環境では、学習する時間が確保できないが、Webなら学べると期待している。また、自分のような人もいっぱいいると考えた為。</p>
<p>効率良く学習する方法を以前から考えていました。当施設でもケアシステムを独自で開発し、サーバー管理をシステム管理会社にいただいています。そのケアシステムの中でも、職員教育ができないか検討していました。今日のWeb研修でインターネット上での学習がどれほど可能か、体験したかったからです。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・指導者としての学びを再度してみたかった</li><li>・家庭にいながら、仕事あまり休まなくて良いと思ったから</li><li>・Web学習への興味</li></ul>

#### 4) Web 学習への期待度、満足度

図 1 にスクーリング時の Web 学習への期待度とモニタリング時の Web 学習体験による満足度を比較した結果を示した。5 名が期待度より満足度の度合いが高く、4 名が満足度の度合いが低く、1 名がほぼ普遍の結果であった。

その期待度の理由、満足度の理由を表 6、表 7 に示した。

表 6 には、フォローアップ研修で学びたい内容も示した。

満足度が期待度に比して低かった人は、比較的高い期待度を有していたといえる。受講動機も比較的高いことから、Web 学習体験が、その期待に比して学習内容や Web 学習のシステムの未成熟により、期待に反した結果であったためと考えられる。

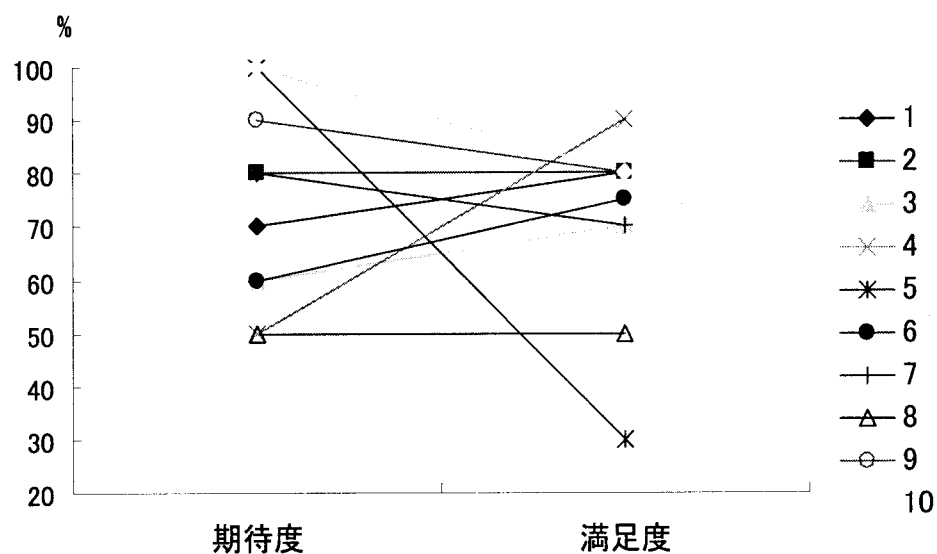


図1 Web学習への期待度と満足度

表6 受講の期待度の理由と学びたい内容

期待度の理由	フォローアップ研修で学びたい内容
<p>現段階ではまだWeb学習が実際に始まっていない為、具体的な学習内容や学習の進め方について分からない部分がありますので、「Web学習機能を利用した痴呆介護者のフォローアップ」という内容についての自分自身の期待値です。実際に学習が始まり、またその学習が進んでいく中で変化していくと思いますが、是非新しい刺激を頂けて、またそこからフィードバックしていけたら、と思います。</p>	<p>痴呆介護の最先端(というのかどうなのか分かりませんが)や情報課題を見つけた際に具体的に学習を進めていくにはどうするか、等も勿論そうなのですが、実務者研修に関わる中で、その研修の根幹の部分の復習したり、その時その時のタイムリーな話題と合わせてどう進めていったらよいのか等に悩みます。また、私の所は指導者が同法人内にいるにも関わらず、日常的な連携や相談がうまく行かない現状ですので、他県の皆さんはもっとその連携に苦労されているのではないかと思います。その辺りの連携の仕方なども知りたいです。参考にしたいです。</p>
<p>・センターを修了してから初めての本格的学習の場になったこと。・インターネットを利用し、どんなに離れていても、皆さんと平等に学習または情報を得ることができること。</p>	<p>・現在担当している講義(実務者研修)の評価 ・効果的な演習内容</p>
<p>・どのようなものか十分理解できていない。・インターネットなどパソコンを十分使いこなせない。・自分がどの程度、時間をとって集中して学習できるか不安</p>	<p>「実務者研修」を実施した後の課題などについて。</p>
<p>内容がよくわからないので</p>	<p>研修の効果測定の方法</p>
<p>一応認知症介護の指導者研修を受け、強く感じたこととして、知識・方法すべてにわたり、日進月歩であること、そして私のように交通便の悪い地域の者にとって学習できる機会が多くなることが切実な願いである。学習できる機会として今日のWeb学習に強く期待しています。</p>	<p>研修修了後の実務の中で研修がいかにかかっているか？生かす際のきっかけや修了者の働きかけのポイント等について知りたい。(他の修了生はどのようにされているかを是非知りたい)</p>
<p>期待度はもっと大きいのですが、自分がどこまでついていけるか、また、その集中力があるか、というところで自分に対して不安があり期待度が上がりません。</p>	<p>指導者としてもっと視野を広げたい。現在いっぱいいっぱいの状況ですので、もう少し余裕というか、肉付けをしたい。</p>
<p>・情報収集がしやすい(たくさんの情報からではなく、痴呆介護の研修という一定の枠組みがあるから) ・他県の取り組みがわかる ・活動できるかが課題(皆がうまく利用できるか？積極的に使わないと宝の持ち腐れ)</p>	<p>・新しい視点(情報) ・講義・演習のヒントになるもの</p>
<p>期待半分、疑問・不安半分</p>	<p>・講義のやり方(効果的な) ・ファシリテーターとしての関わり方 ・カリキュラムの作り方 ・センター方式の活用法</p>
<p>・Web学習が確立する事により、研修参加もしやすくなると思われる (1)自宅で受講できる (2)自分で時間調整が可能となる (3)一度に多くの人を受講できる ・パソコン操作になれた人が増える(パソコンを使えない人が比較的多いのが現状) 上記理由で90%、以前よりインターネットを活用した研修を希望していた点も含まれる。残り10%のマイナス理由 ・トラブル発生時の対応 ・一方向だけの教育になる不安(相手がいないと質問できないと思う人)</p>	<p>センター方式アセスメントシートの実務的な活用方法</p>
<p>今までのフォローアップ研修は、日数が多く参加が難しいと思っていました。今回はスクーリングとモニタリングの2日で良い、又パソコン学習ということで学習しやすいということで申し込みました。私たち指導者は伝えることの難しさをいつも感じながら計画しています。伝えたいことが引き出されなかった後はどのように進めていくのか。私は第1期で演習がなかった分、このWeb学習で再度学んでみたいと思います。</p>	<p>・カリキュラムの内容(基礎、専門) ・施設実習のカリキュラム</p>

表7 満足度の理由

6wの日程の中で、思ったよりもスケジュール的に厳しかったこともあり、あっという間に過ぎてしまいました。研修生という立場を離れ、職場に戻ると、なかなか研修の中で感じたような気づきや刺激にとぼしくなったのでは？と感じていたのが、実際に今回の体験を通して、新しい刺激の必要性を再認識しました。少しずつ慣れてきたところなので、内容的にも日程的にもうすこし欲しかった・・・と、個人的な感想ですが。

- ・1つの教材を使うことで他の受講生の考えていることがわかり、とても勉強になった。
- ・指導者として大切にしたいことを実現させるための考え方を学べた。(具体的には企画書を作成する時に)
- ・あとの20%は毎回の締め切りに間に合わせるというプレッシャーかな。

- ・もう少し講師とやりとりできたら良かった。
- ・一つ一つの課題をもっと深めたかった。
- ・二月～三月と時期的に仕事に忙しく学習する時間の確保が困難。

ペースに慣れてからは、仕事やその他との調整にもあまり困難を感じなくなりました。何より他の研修の演習を作成中だったので、基本を再確認したり、どう伝えるかを試行錯誤する非常に有効なきっかけになりました。忘れていたこともたくさんあったので、それを思い出しただけでも収穫でした。

せっかく素晴らしい教材を提示していただいていたことに対し、当初は張り切って取り組もうとしました。しかし、まず自己紹介をと2ページにわたる長文を作成し送ったつもりが送れていなかったり、途中フリーズし操作ができなくなったり、コンピューターの扱いの不慣れや、ウィルス対策が出来ていなかったりし思い通り作業が進まずといったため大変消化不良の気持ちが残ったのみです。言い訳になりますが他の業務を抱えWeb学習に集中できなかった点も悔やまれます。

1. 先輩方が行ってきたものを当たり前のように見よう見まねで実施していました。今回の学習で研修センターで学んだ事を振り返る機会を得ました。
2. 他の人の考え方や方向性など大変参考になりました。
3. 自分の学習の足りなさを反省しました。
4. この学習を実際に生かせるかまだ不安なところもあります。

開発途中であり、受講者側が何を必要としているのか、提供者側がどういう可能性を探っておられるのか、それぞれ明確ではないのでこの点数です。Webという道具を使っての可能性はまだたくさんあると思いますので、様々な形を今後探って行って頂きたいと思います。

PCの動作環境の問題なのか、全くログインできなかった(たまにログインはできましたが)。また、Web上でのやりとりなので、表現がわかりにくかった。

- ・課題内容が指導者としてどう考えどう実践していくのか？ということを考える機会になった事、学習しながら自らの指導者としての姿勢を見直すきっかけになった事は、参加して良かったと実感した。
- ・課題提出した後に他の人の提出された課題結果を見ることができ、参考になった。と同時に自分の甘さにも反省する機会になった。
- ・他の参加者と意見交換ができ、新しい仲間が出来たこと。

研修に参加された方々への伝え方について学べた。また、自分の伝え方のどこに問題点、足りない点があるのかを知ることができた。また、Web学習というものについて学べ、忙しい勤務の中で学べる場所があることは私にとっては充実していた。しかし私には理解する力が不足していたところで-20点をつけた。



### 5)研修状況に関する結果

図 2、図 3 に研修状況に関する結果のスクリーニング時とモニタリング時それぞれの結果を示した。

「新しい事を学習する機会や場がない」「学習する時間を確保できない」「学習する方法がわからない」「情報の収集の方法がわからない」「必要な情報が提供されない」の項で、スクリーニング時に比してモニタリング時の評価に「まったくそう思う」「そう思う」という回答が減少傾向を示した。

特に、最初の 3 項目は、Web 学習という研修方法を体験した影響が指摘される。

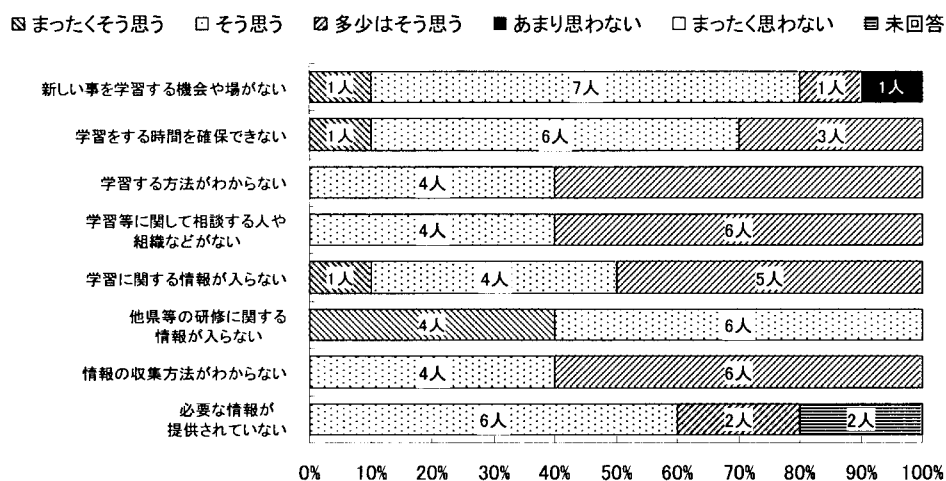


図2 研修状況に関する結果(スクリーニング時)

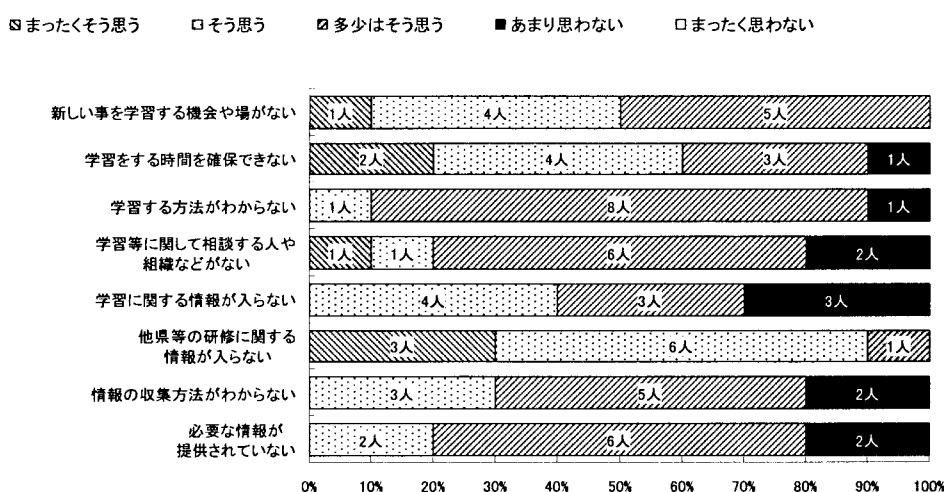


図3 モニタリング時アンケート結果

6) 研修に関し重要視している課題に関する結果

5)の研修状況で示した項目のうち、どの項目を特に重要視しているか順位付けをした結果を図4と図5に示した。

「新しいことを学習する機会や場がない」を選択した割合がモニタリング時で増加していた。一方「他県等の研修に関する情報が入らない」は減少していた。

日々新たな情報が提供される認知症ケアの現場のニーズを反映している結果といえる。一方研修情報に関しての減少は、Web 学習の「討論の場」での情報交換等が影響していることが考えられる。

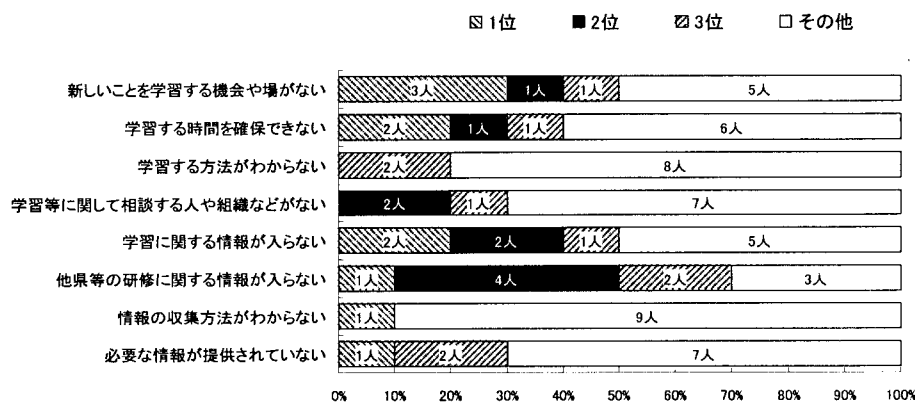


図4 研修に関し重要視している課題（スクリーニング時）

※その他は1位・2位・3位に選択しなかった人数

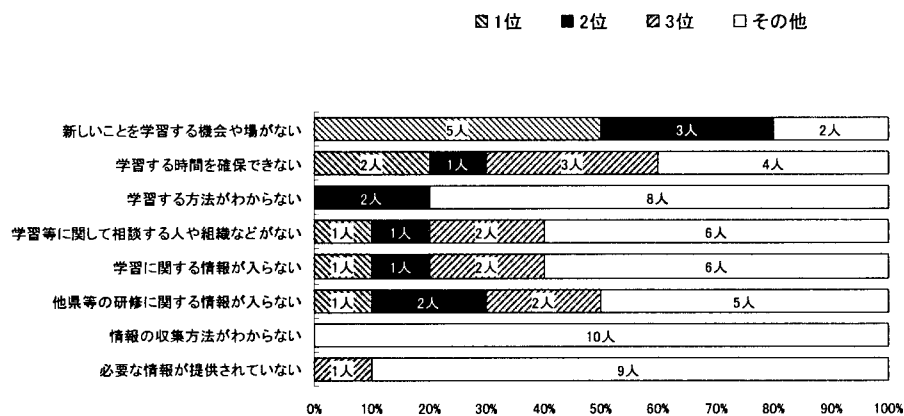


図5 研修に関し重要視している課題(モニタリング時)

※その他は1位・2位・3位に選択しなかった人数

7)研修受講で重視する点に関する結果

図 6、図 7 に研修受講に際して、研修のどのような点を重視するかを順位付けした結果を示した。それらの選択理由を表 8、表 9 に示した。

スクーリング時とモニタリング時とも「研修テーマ」「研修担当の講師」の選択が多く選択された。一方「研修開催場所」の選択は減少していた。研修受講においては、研修担当の人材も含めた内容が重視されることが示された。

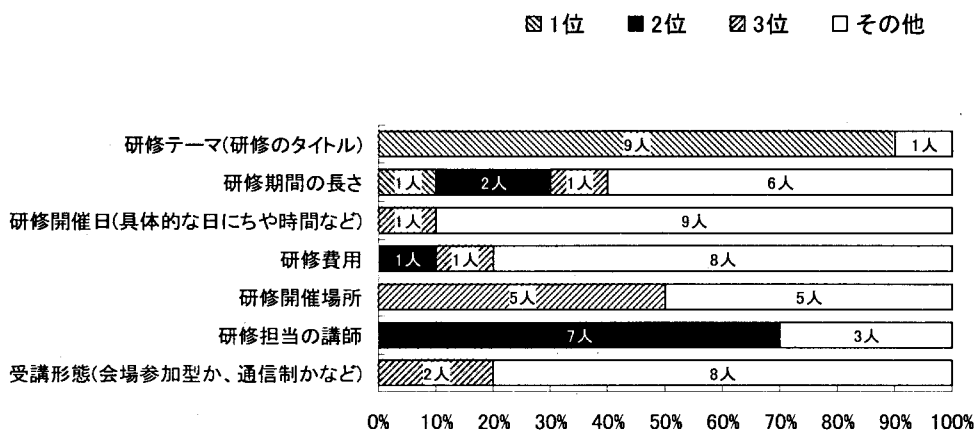


図6 研修受講で重視する点(スクーリング時)

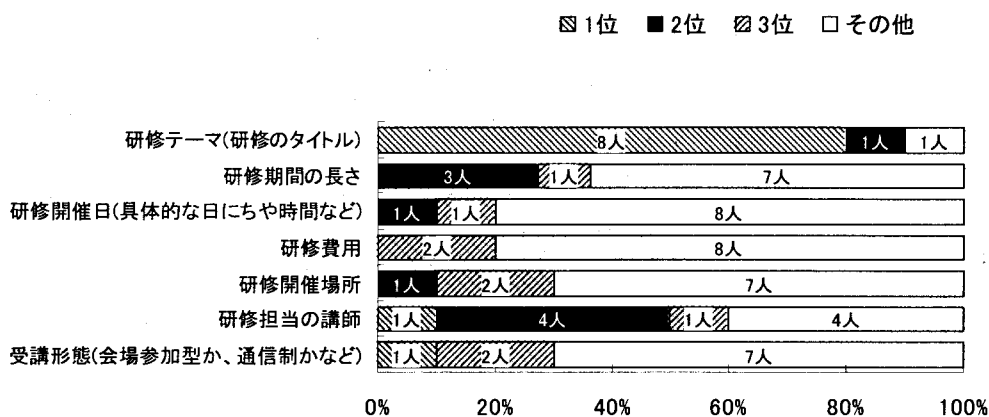


図7 研修受講で重視する点(モニタリング時)

※その他は、1位・2位・3位に選択しなかった人数

表8 研修受講の際に重視するものの理由(スクーリング時)

1位	2位	3位
やはり自分が抱えている悩みや学びたいテーマと合致しているかどうか、それによって受けたいかどうか、と判断します。	上記のテーマ、内容等について更に話に興味を持てる講師の方であれば、「是非参加したい」と思いますので。自分達で企画の研修の場合、コネが無いと難しいですが・・・	通信制は時間も体力も必要なので、抱えているテーマが今あれば、ヒントをもらえてお土産を都度持って帰れるような会場受講型が受けやすいかな、と思います。
・現場で悩んでいることや個人的に興味・関心のある研修を選んでいきます。内容:リスクマネジメント、痴呆の人をかかえる家族の話、人材育成・教育、施設と地域の連携	・話題になっている本の先生や研究・研修センターの先生方。・三好春樹、和田さん(大逆転の痴呆ケア)、小宮さん	会場参加型 ・演習の有無、グループワークの時間
興味、関心のあるテーマであれば参加したい。目安:痴呆介護、人材育成	本でみたり、一度話を聞いて共感する部分の多い人 目安:痴呆介護、人材育成	施設の行事や予定などのかねあい。
・入所施設における家族との協働のあり方。・老々介護を行う家族への支援。・若年性アルツハイマー型認知症患者を介護する家族への支援	・上記テーマについて、特に具体的な人物はない。・実践者 ・思いあたる研究者はいません。	・県内及び隣県で日帰り可能な範囲
地域社会における認知症高齢者の生活の継続	最大限一週間	研修は自分の為でもあるので基本的には本当に学びたい内容ならお金に糸目をつけるべきではないと思うが、1ヶ月の給与の5分の1レベル迄の必要経費ならOKか。
自分の興味のあるテーマや内容	分かりやすく楽しい、または有名な講師	あまり遠い所では難しい
自分の今抱えている課題や疑問に合致しているかどうか	その人の専門性や実体験	地方圏(例:関東、四国)内の研修
参加の意思はほとんどが研修の内容で決まると考えるので具体的に何を学べるのかがわかるテーマを示す必要があり、テーマと内容が違くと悪く評価される。	参加者は実際に実務をかかえているので、あまり長期間職場を離れられない。又、5日間程度でも、連続よりも間をあけた方が勤務上都合が良い。	場所についてもあまりにもアクセスが悪いとか、わかりづらい所だと参加するのが面倒になってしまうし、時間や費用の問題も発生する。
研修テーマが“実際の現場で役立つ”“実務的な・・・”などと記載されたものに参加しようと思う。又、“新しい・・・”など、自分の中で知らない情報だと思ふときに参加したいと思う。	・研修の担当講師は、本などを書かれている先生(自分が過去に読んで参考になった本の著者)は参加したいと思う。現場にたずさわっておられる方の話を聞きたいと思う。	研修の長さについては、休むがとれる期間を考えると、公休か週2日のパターンが多いため、2日間程度の研修が参加しやすい。長期は参加できない事が多い。
2連日で月2回	具体的にはいえませんが、老若男女でもちがってくるだろうが、自分に負担のない範囲とその都度判断	移動時間は2時間程度

表9 研修受講の際に重視するものの理由(モニタリング時)

1位	2位	3位
<p>興味関心を持って、それに参加したい、勉強したいと思えるかどうか、自分にとって今必要なものを感じられるテーマかどうか、がポイントになるかと思えます。</p> <p>そういった点で、指導者の方々が現在実践している演習や内容を題材にすると、自分の抱えている課題とのリンクが多いかと思えます。</p>	<p>研修テーマと重なる点もありますが、自分が知りたいこと、興味関心を持っていることに対して、では誰が講師かという点は研修参加についてとても大きなポイントになるかと思えます。</p>	<p>通信制となると、最後まで達成できるのか？ 業務を抱えながらその時間確保ができるのか？ 等の不安もありますが、今回モニター参加して、新しい通信学習を体験したことにより、「こんな研修方法もある。こうやって学習することもできるのか」と実感しました。</p>
<p>・認知症の研究を専門としている方の話 ・今一番興味のある人は和田さんの話をきいてみたい。(大逆転の痴呆ケア)</p>	<p>・ICFを具体的に事例などを用いてわかりやすい内容の講義 ・生活環境(ユニット、グループホーム、生活空間づくりなどの内容)×認知症高齢者の)</p>	<p>グループワークができる場なら、どんな形で参加したい。会場参加型だと直接顔を合わせて話ができいいし、通信だと全国の人達の意見が聞けるからいいし。どちらかという会場参加型の方が話が進みやすいかな。</p>
<p>・痴呆介護。(アセスメントとケアプランなど) ・人材育成</p>	<p>・痴呆介護 ・人材育成</p>	<p>・3～5日 又は週に2日ずつ4週ぐらい</p>
<p>・ICF ・介護保険制度 ・援助技術一般(ケースワーク etc.)</p>	<p>基本的には自宅から日帰り可能な場所。最大で一泊で往復(研修時間を含み)できる場所。</p>	<p>一泊が限界であるため、往復の時間を除いた2日間。</p>
<p>今自分が抱えていたりする課題に直接・間接に関係している研修内容か否かで、やはり全然関係がないと判断した場合、受講しないことが多いです。</p>	<p>拘束される期間の長さは、日常生活や業務に影響を及ぼします。認知症介護指導者研修のような3ヶ月間に及ぶ研修は事業所として人のやりくりが出来ない場合は研修に参加させることが出来ないことが多いです。</p>	<p>現在、地方圏で仕事を行っています。やはり魅力ある研修会は大都市で行われます。東京で行われていても参加できず、近くにて開催されるまで待つというのが一般的です。</p>
<p>テーマはやはり自分が現在一番関心を持っている事や、不足とする部分を補えるような内容。具体的には分かりません。</p>		<p>会場は近い方がで出易いが全体を考えると中間点が良い。時間的には1～2時間の移動時間の場所。</p>
<p>自分が現在課題だと思っていることと内容が合致しているかどうか</p>	<p>平日にある研修(土・日・祝は出にくい)。</p>	<p>現場実績があり、話の内容が分かりやすい人。</p>
<p>何回か学んだ項目ならあまり興味を持たないし、時間が少ない中で受講するので、あまりにも実践的でないものは受講対象から外れる。</p>	<p>職務上、あまり長期(1W以上)に渡る研修は参加できない。職務に支障が出てしまえば本末転倒だと考える。また、何日か連続するなら月をまたぐような日程の方が参加しやすい。</p>	<p>あまりにも遠くて交通費などがかかるようでは負担になる。</p>
<p>・現場で困ったことが解決できるような、実践に役立つ内容 ・これから求められる高齢者福祉の新しい考え方等。</p>	<p>・月末や月初の請求などで忙しくない日 ・土日は避ける ・時には日勤の業務が終了してから参加できるPM6:00～の研修など</p>	<p>施設が負担してもらえない事も考慮し、出来れば一回(1日6時間程度であれば)¥3000程度、それ以上の金額になる場合は研修時間を短くするなどの調整にて費用が増えない配慮が必要と思われる。</p>
<p>研修に参加したいが休日が取れないという点で常に迷うことが多いです。休日をまとめて取らずにすすむ学習方法を考えます。</p>	<p>会場参加型としても休日をまとめて取らずに週一日程度ならばと考えます。また、通信ならばなおさら良いと思いますがせいぜい半年程の期間でないとだらけてしまうかもしれない。</p>	<p>あまり高くない方が良いと思います。若い方にも参加していただくためには。</p>

## 8) Web 学習受講の学習時間に関する結果

- ・ Web 学習の教材に対する評価については、全員が「課題に沿った教材であった」と評価した。
- ・ 教材の量については、8 名が「適切」と回答し、2 名が「多すぎる」と回答した。
- ・ 学習期間については 6 名が「今回の長さでよい」とし、4 名が「長いほうが良い」と回答し、8 週間から 12 週間程度が適当であると回答した。
- ・ 日常業務をしながら Web 学習を受講する場合、何週間程度の学習期間が望ましいかという問いには、平均 7 週間であった（最低が 2 週間、最高が 12 週間）。
- ・ 今回の Web 学習に際して、学習時間をどのように確保したかについては、ほぼ毎日が 1 名、週数日が 2 名、休日利用が 6 名、その他 1 名であった。
- ・ 学習時間について、1 回の学習時間は平均 120 分（60 分から 200 分）であった。
- ・ 教材ごとの学習時間について、教材 1 は 1 日から 3 日、教材 2 は 1 日から 5 日、教材 3 については 1 日から 6 日であった。

ほぼ教材の内容と量は、適切なものであったといえる。しかし評価の背景には、モニターとして参加した回答者の動機づけの高さがうかがえる。学習時間は各自が工夫して確保していたようであるが、日々の仕事の中で時間の確保に苦労していた様子がうかがわれる。

## 9) Web 学習受講の添削コメントに対する評価の結果

Web 学習教材に対する課題添削の内容に対して、添削を受けたモニターがどのように評価したかを図 8 に示した。

「コメントの内容」は、ほぼモニターから見ても、納得のいくものであった。一方添削コメントの「表現の適切さ」「コメント箇所の適切さ」について、評価される側からするとやや不満の残る結果であった。

これは、本事業の委員が添削を担当したが、事業の準備上、添削者間での打ち合わせや添削のルール作りができず、添削担当者に一任した部分が多かったためであったといえる。

## 10) Web 学習全体の評価の結果

事由記述による評価として、

- ・ 題材としては数限りなく挙げられると思うが、教材に対して意見を出し、講師や他研修生とやり取りして「こうしたら」というアイデアを示す方法は良かった。
- ・ 自分では頑張っているつもりでも、客観的に効果的な講義・演習を考えることがなかった（その間が得る機会になった）。
- ・ 演習を通して、それぞれの考えで作りに上げていけるように配慮されていた。
- ・ 研究授業が課題となっていたので取り組みやすかったと思う。
- ・ 指導者という立場での考え方を学べた。

という回答があった。Web 学習でなければ得られない成果とは言いがたいが、参加した指導者がある程度、成果を得たことがうかがわれる回答であったといえる。

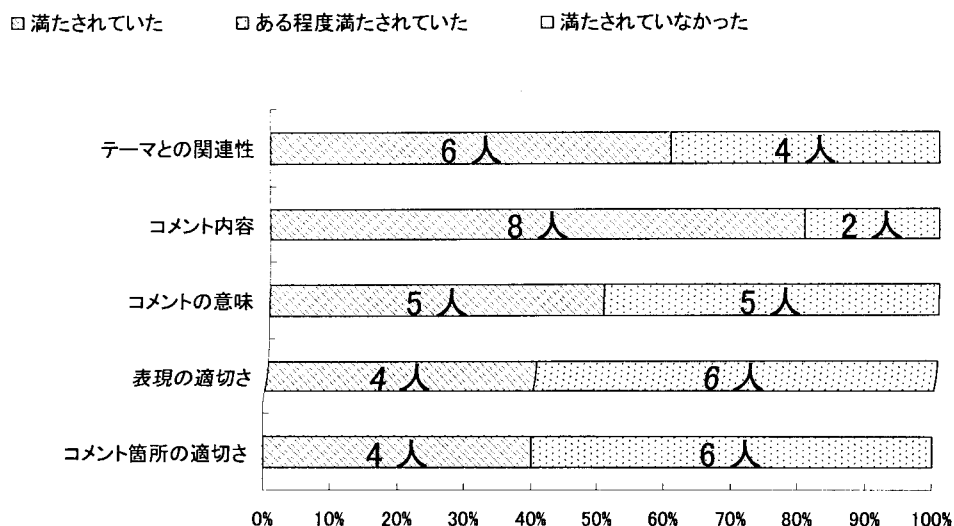


図8 添削者のコメント内容に関するモニターによる評価

#### 4.Web 学習試行の成果と今後の課題

今回 Web 学習を、指導者を対象に試行した。モニターとして参加した指導者は、学習に対する動機づけが高いというバイアスはあるものの、Web 学習の教材内容、学習内容についての一定の成果を得たといえる。

今後の認知症介護指導者や実務者等の現任者への研修の機会、学習の機会を提供するシステムとしての可能性を有していることが示されたといえる。一方で、今後 Web 学習を展開していく場合の課題も指摘される。

以下に、今後の Web 学習展開上の課題を挙げる。

##### 1)Web 学習のねらいと対象者の課題

- ・個人学習として達成可能な学習のねらいの設定。
- ・認知症介護指導者のみではなく、認知症介護に携わる現任者を対象としたねらいの設定。

##### 2)学習教材の内容と量の課題

- ・仕事に従事しながら、学習しようという動機づけを高め、維持できる教材の開発。
- ・Web 機能を生かした教材の開発。
- ・仕事に従事しながら、短い時間でも実施できる教材の量の設定。



## 第2部 システムの構築

### 1. システム開発の目的

DCnet の Web 学習システムは、認知症介護研究・研修東京センターにおいて平成16年度老人保健健康増進等事業の助成によって実施された「Web 学習機能を使用した痴呆介護指導者学習支援事業」のために開発されたものである。

本システムでは次の2点について検証を行うことを目的とする。

- 1) 認知症介護情報ネットワーク(通称:DCnet)のクローズサイト機能である「Web 学習機能」を試験的運用することで本格運用に向けた可能性を検証する。
- 2) 認知症(痴呆)介護指導者へのフォローアップ研修としての有用性を検証する。

### 2. システムの名称

名称 : DCnet Web 学習システム

URL: <http://e-school.dcnet.gr.jp/>

### 3. システムの環境

本システムは、認知症介護情報ネットワーク(通称:DCnet)上に構築された DCnet サブシステムとして位置付けられるが、試験運用システムであることから本システムとは別の認証機能とする。

また、本システムでは動画教材を利用するため、利用者環境としてパソコン及びインターネット環境について以下の条件を設けている。

- 1) インターネット環境が ADSL、光回線、ケーブル TV 等であり、1MB 以上であること。
- 2) OS は Windows2000 もしくは WindowsXP とする。
- 3) CPU は Pentium4 以上とする。
- 4) メモリは 256MB 以上とする。
- 5) ブラウザは Internet Explorer6.0 以上とする。
- 6) メディアプレイヤーは Windows Media Player9.0 以上とする。

## 4. システムの機能

本システムは、受講生と講師用の2つのシステムから構成され、それぞれの目的に応じた機能を有する。それぞれの機能の概略は、4-1、4-2に示し、基本機能については4-3以降に示すものとする。

### 4-1. 受講生用のトップ画面

受講生が利用するメニュー（画面左）は以下の通りである。

■ Web 学習システムの目的

痴呆介護指導者養成研修修了者として、インターネットを用い、最新の痴呆介護に関する高度な専門的知識及び技術習得させるとともに、痴呆介護実務者に対する研修プログラム作成方法及び教育技術の向上を図ることを目的とします。

■ 講師からのお知らせ

- モニターの方へ  
Web学習への参加協力ありがとうございます。Web学習期間614日で終了となります。つきましては、3月18日(金)にモニタリングを実施いたします。会場は痴呆介護研究・研修東京センター3階第3会議室、時間は午後2時から5時を予定しています。時間までお越しくださいますようお願い申し上げます。なお、当日は印紙をご持参くださいますようお願いいたします。では、皆様のお越しをお待ちしております。
- 東京センター 当研究事業担当 小野寺
- 第1回教材の課題提出が6日遅れています。早急に提出してください。
- 添削結果は届いていません。

■ Web 学習システムの趣旨

今回実施するWeb学習は、平成16年度老人保健健康増進等事業の助成によって実施している「Web学習機能を使用した痴呆介護指導者学習支援事業」です。この事業の目的は、ひとつは、痴呆介護情報ネットワーク(通称:DCnet)のクローズサイトにある「Web学習機能」の試験的運用により、本格運用の可能性を検証すること。ふたつめは、「Web学習機能」が、痴呆介護指導者へのフォローアップ研修の機能として有用であるかどうかを検証すること。以上の2点です。この趣旨に沿って、今回のWeb学習が企画されました。

■ 研修の概要

今回のWeb学習は、試験的運用のため、痴呆介護指導者から参加協力者(モニター受講者)を募り、その方々を受講者として、Web学習を始めていきます。モニター受講者は、12名を予定しています。

研修は、①スクーリング:研修説明会ならぬアンケート等の調査、②Web学習:この期間は約6週間、③モニタリング:受講の結果についてのアンケート調査 から成り立っています。

スクーリングとモニタリングは、本事業に関する調査を兼ねており、東京センターを会場に開催されます。Web学習は、自宅等で、DCnetの環境を利用して行ないます。今回の受講教材のテーマは「痴呆介護実務者研修における効果的講義・演習の展開を学ぶ」です。

① お問い合わせ ② 実施環境 ログアウト

©copyright 2005 DCnet all rights reserved.

#### 1) 利用案内

- ・ カリキュラムの進め方

Web 学習の学習手順およびカリキュラムの進め方についての説明

- ・ 講師紹介

受講生の提出資料の添削を担当する講師のプロフィール紹介

## 2)科目

学習科目について実施スケジュールと学習の進め方について説明

## 3)討論の場

受講生同士で課題に対する意見や質問など自由に議論する場

## 4)成果発表の場

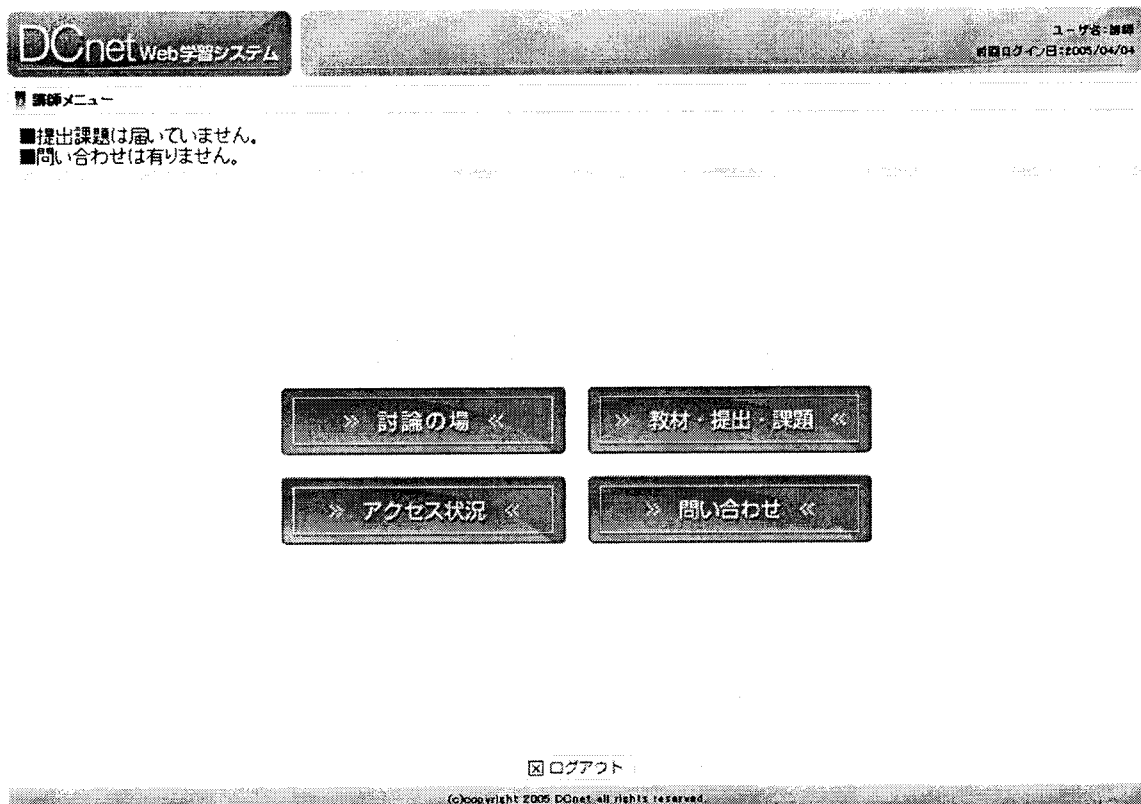
受講生の提出資料の公開の場

## 5)問合せ

システム操作に関する質問や学習内容に関する問合せ

### 4-2. 講師用のトップ画面

講師が利用するメニュー（4つ）は以下の通りである。



#### 1)教材・提出・課題

受講生が提出した資料の確認と添削

#### 2)アクセス状況

受講生のアクセス状況を確認

#### 3)問合せ

受講生からの問合せ一覧と回答

#### 4)討論の場

受講生と同様に意見や質問など自由に議論する場

#### 4-3.認証機能

ユーザー識別のための ID 及びパスワードによる認証機能。

The image shows a user login form. It has a dark, textured background. There are two input fields: one for "ID" and one for "パスワード" (Password). Below the password field are two buttons: "ログイン" (Login) and "リセット" (Reset).

Copyright 2008 DCnet. All rights reserved.

1)教材・提出・課題

受講生が提出した資料の確認と添削

2)アクセス状況

受講生のアクセス状況を確認

3)問合せ

受講生からの問合せ一覧と回答

4)討論の場

受講生と同様に意見や質問など自由に議論する場

4-3. 認証機能

ユーザー識別のための ID 及びパスワードによる認証機能。

A dark, textured rectangular box containing a login form. It has two input fields: "ID" and "パスワード". Below the fields are two buttons: "ログイン" (Login) and "リセット" (Reset).

#### 4-4.スケジュール機能

学習スケジュールに従って「課題（教材）」、「提出（成果物）」を行う。また、「添削」された結果を表示する機能を持つ。これらはあらかじめ決められたスケジュールに沿って利用可能となる。

■ 科目 > 実務者研修講義・演習の評価

■ 第1回教材の課題提出が68日遅れています。早急に提出してください。■ 添削結果は届いていません。

日程	学習の進め方	課題	提出	添削
2005/01/31	課題1について、2/6まで回答を提出して下さい。	第1回教材		
2005/02/06	課題1の回答期限です。		提出する	
2005/02/07	課題2について2/14まで回答を提出して下さい。			
2005/02/14	課題2の回答期限です。			
2/15～2/20の期間で課題2の添削を行い「成果発表の場」で他の受講生に公開します。				
2005/02/15	この期間、他の受講生の成果物や課題の添削結果を踏まえて、課題1.2を再検討し、その結果を2/21まで提出して下さい。			
2005/02/21	課題1.2の再検討結果を回答して下さい。			

戻る

(c)copyright 2005 DCnet all rights reserved.

#### 4-5.学習指示機能

学習の要領に従って学習教材及び回答用資料をダウンロードする機能。

#### 4-6.コミュニケーション機能

##### 1) 討論の場

受講生同士のコミュニケーション機能として投稿、閲覧、返信ができる。

「学習の要領」の画面

DCnet Web学習システム ユーザー: 古谷 英  
科目ログイン日: 2006/02/22

科目 > 実務者研修講義・演習の企画 > 課題3

課題3において、ご自身が指摘した課題点と具体的改善策の中から、重要であると考えられる3項目を選び、その3項目の視点で、課題3ワークシートを訂正して、企画書の改善案を示してください。

**学習の要領**

01 課題2の回答結果のうち、どの視点で変更したのか、課題2の回答番号と回答内容を課題3ワークシート1の「企画書改善の視点」の欄に記入してください。

02 ただし、わらいの変更は不可とします。

03 課題3ワークシートに手直しする形で示して下さい。その際手直しした部分分かりやすいようにフォントの色を青に変えてください。

※回答結果は、Web上で他の受講生と共有しません。

**教材**

**提出ファイル**  
課題3ワークシート(提出ファイル)

**回答方法**

- 提出物のタイトル : 課題3の回答
- 提出ファイル形式 : 課題3ワークシートExcel(提出ファイル)
- 提出期限 : 平成17年3月4日(月)
- 問合せ先 : トップページ「問合せ」ボタンをご利用ください。
- 宛先 : 東京センター 中村

[戻る](#)

(c)copyright 2006 DCnet all rights reserved.

「討論の場」の画面

DCnet Web学習システム ユーザー: 古谷 英  
科目ログイン日: 2006/04/05

討論の場 【59件中 1件~10件表示】

[新規登録](#)

件名	日付	発言者
九州の皆さん、大丈夫だったでしょうか？	2005/03/24	氏名
お疲れ様でした。	2005/03/19	
↳Reお疲れ様でした。	2005/03/20	
↳ReReお疲れ様でした。	2005/03/24	
↳Reお疲れ様でした。	2005/03/21	
↳ReReお疲れ様でした。	2005/03/24	
↳ReReReお疲れ様でした。	2005/03/27	
↳Reお疲れ様でした。	2005/03/23	
こんばんわ	2005/03/16	
モニタリング実施について(3月18日(金))	2005/03/12	講師

[戻る](#)

(c)copyright 2006 DCnet all rights reserved.

## 2) 成果発表の場

受講生が提出した資料は公開され他の受講生と共有できる。

DCnet Web学習システム

ユーザー名: 受講生  
所属ID: 1005/0000

■ 成果発表の場

課題の再検討結果を公開します。  
提出課題を見る際には「提出課題ダウンロード」をクリックしてください。

提出者	提出課題	再検討結果
氏名	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード
	課題の再検討結果	提出課題ダウンロード

課題を公開します。  
提出課題を見る際には「提出課題ダウンロード」をクリックしてください。  
添削結果を見る際には「添削結果確認」をクリックしてください。

## 4-7. 課題添削・提出機能（講師機能）

講師が受講生から提出された資料の確認と添削を行う機能。受講生から課題が提出された時点でリストに日付、コメント、名前の情報が表示され、リスト上において課題の確認と添削を行う事ができる。また、過去に添削した内容も閲覧する事ができる。

DCnet Web学習システム

ユーザー名: 講師  
所属ID: 1005/0000

■ 教材・提出・課題

【49件中 1件~20件表示】

次のページへ

日付	コメント	名前	提出	承認
2005/03/18	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。	氏名	提出課題ダウンロード	
2005/03/18	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/14	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/14	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/12	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/12	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/12	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/11	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/10	第三回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/03/08	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/03/08 添削完了
2005/03/08	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/03/08 添削完了
2005/03/02	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/03/02 添削完了
2005/03/01	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/03/01 添削完了
2005/03/01	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/03/01 添削完了
2005/02/28	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/02/28 添削完了
2005/02/28	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/02/28 添削完了
2005/02/27	第一・二回教材の再検討提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	
2005/02/27	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/02/27 添削完了
2005/02/27	第三回教材の提出課題が完了しました。		提出課題ダウンロード	1005/02/27 添削完了



#### 4-8. アクセス状況管理（講師機能）

受講生のアクセス状況（アクセス日時、アクセス時間）から学習の進捗を確認する機能。

ログイン日時	ログイン日時	アクセス時間
2005/02/02 09:49:27	2005/02/02 09:50:00	0分
2005/02/08 05:52:55	2005/02/08 05:52:59	0分
2005/02/08 05:53:08	2005/02/08 05:53:22	0分
2005/02/08 14:51:15	2005/02/08 18:31:35	220分
2005/02/08 18:35:03	2005/02/08 18:35:21	0分
2005/02/08 18:35:59	2005/02/08 18:37:46	1分
2005/02/10 17:10:20	2005/02/10 17:14:27	4分
2005/02/10 17:15:05	2005/02/10 17:16:29	1分
2005/02/14 01:56:10	2005/02/14 01:56:35	0分
2005/02/14 01:56:47	2005/02/22 02:06:22	11529分
2005/02/14 02:07:22	2005/02/22 02:08:22	11529分
2005/02/22 00:06:57	2005/02/22 02:06:22	11529分
2005/03/01 00:48:18	2005/03/01 01:03:49	15分
2005/03/03 03:13:01	2005/03/03 03:13:35	199分
2005/03/07 00:31:58	2005/03/07 00:51:03	51分
2005/03/07 10:21:34	2005/03/07 10:22:01	622分
2005/03/09 01:02:36	2005/03/09 01:02:15	62分
2005/03/09 01:02:39	2005/03/10 14:13:53	853分
2005/03/09 01:05:38	2005/03/10 14:13:53	853分
2005/03/10 14:04:00	2005/03/10 14:13:53	858分

#### 4-9. 問合せ管理（講師機能）

受講生からの問合せを一覧表示する。問合せの投稿があった時点で、一覧表に掲載され、管理者にメールで同内容が配信される。

日時	名前	内容
2005/02/02	氏名	講師からのお知らせ欄で「第3回教材の再提出期限が近づいています。要領に提出して下さい」と表示されています。第3回教材の提出が2月13日までですか？ 何かの都合などあったのですが表示が変更になっておられるのか心配になってきました。変更期限が過ぎてきたのも7日の日付だったのでそれではまだ7日の再提出のための対応をお願いします。
2005/03/03		「添削結果が回っていません」とご連絡していますが、添削が完了したのは私のほうです。添削の内容がよくなりました。
2005/03/07	教材編用(講師)	本府センターの添削です。第3回の高島さんの添削がまちがいです。提出されたところに書かれています。もし間違いがなければ、キャンセルをお願いします。そして、宇村さん、お仕事の都合を教えてください。
2005/02/22		添削の回答方法が、まだいまいち分からなかったのでも、回答して不要かも知れませんが、少し不安です。三輪五月
2005/02/22		申しわけありません。添削を提出した後、あつて閉鎖されたので、訂正しました。もう一度、提出された内容の訂正をよろしくお願いします。何かお手伝いをお願いします。
2005/02/22		はい。添削2の修正が別々に修正されたので、訂正されませんでした。どうしたら良いでしょうか。
2005/02/21		「添削1、2の再提出結果を提出しようとしたら、「2/21」に更新しました」と表示が出ていました。それって「提出ができない」とは、どうしてでしょうか？ とします。センターまでご連絡をお願いします。
2005/02/17		質問いたします。添削2の提出期限の再提出が再提出、予定だったのですが、私の添削2が提出できず、どうしてでしょうか？ 自分自身3日～14日の間に提出したわけですが…？
2005/02/17	教材編用(講師)	添削が中止です。田中さん、高島さん、高島さんの提出期限に間に合いませんでしたが、添削のアイコンが、私も私が書いた文章が出てきました。確認下さい。
2005/02/16		添削に書いておきます。私の添削結果として高島さんからの添削が完了していますが、他の方の提出物の添削結果を再提出するのと同じように、それと見せかけますが、わかりやすく、合わせてさせていただきます。お返事、お待ちしています。
2005/02/08		お世話になっております。添削に書いておきます。添削2の提出期限が再提出の場合、「添削結果の提出が期限を過ぎてしまったのか？ それとも、新たに提出するのと同じか？ とよくお聞きいたします。
2005/02/08		田中先生
2005/02/08		ログイン、添削で画面のパスワードを入力する画面が表示されますが、何か別の方法はありませんでしょうか？
2005/02/04		添削2を提出しようとしたら、エラーが出ました。科目の変更は完了して提出されたことになっており、「提出する」の欄にアクセスできません。訂正したものが、訂正してからの場合、どうすれば良いのか、お知らせが欲しいと思います。
2005/01/31		1回添削していただいた添削が修正でできません。

## 5.システム運用結果

本システムは、平成 17 年 1 月 31 日から平成 17 年 3 月 14 日まで 43 日間に渡って試験運用され、その間の利用状況および運用側の対応状況について報告する。

### 5-1. 利用状況

受講者の利用回数および利用時間帯について、アクセスログから利用状況を分析した結果、利用者中最も多いアクセス回数は 105 回、少ない利用者で 24 回である(表 5-1.)。また、利用時間帯は日中(9:00~18:00)の利用に比べて、18:00 以降の夜間から朝 9:00 以前の時間帯における利用率は 7 割を超えている(図 5-1.)。

表 5-1. 受講者毎の利用回数

受講者	アクセス回数
A	30 回
B	24 回
C	67 回
D	87 回
E	34 回
F	41 回
G	105 回
H	42 回
I	97 回
G	44 回

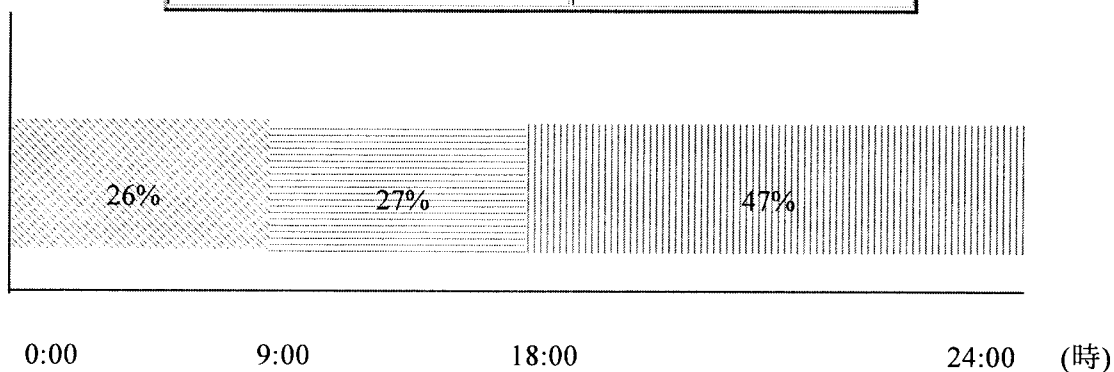


図 5-1. 時間帯別利用率

## 5-2. 運用実施事項

システム運用側の実施事項として、受講生および講師からの問合せに対する対応を行った。また、運用中に発生したシステムの一部に不具合に対する対応状況について報告する。

### 1) 問合せ対応

受講中の問合せについて、システム操作に関する問合せについてはその都度運用側から個別に対応し、学習内容に関するものは教材担当の講師へ対応依頼を行った。表 5-2.には問合せ内容一覧、図 5-2.に問合せの種別比率を示し、表 5-3.に運用実施項目の一覧を示すものとする。

表 5-2. 問合せ内容一覧

種別	内容
課題の内容関連 (計 2 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題 3 の回答方法について(1 件)</li> <li>・ 課題 2 の回答方法について(1 件)</li> </ul>
課題提出時関連 (計 6 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再提出方法について(3 件)</li> <li>・ 提出がうまくいかない(3 件)*</li> </ul>
添削時関連 (計 3 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 添削方法の問合せ (1 件)</li> <li>・ 添削ファイル誤操作 (1 件)</li> <li>・ 添削ファイルの登録がうまくいかない(1 件)*</li> </ul>
案内表示関連 (計 2 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師からのお知らせ案内の日付について(1 件)*</li> <li>・ 案内文について(1 件)</li> </ul>
ログイン関連 (計 5 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ログインできない(4 件)</li> <li>・ ログイン方法の改善について(1 件)</li> </ul>
その他 (計 7 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム操作関連 (6 件)</li> <li>・ メールアドレス変更依頼 (1 件)</li> </ul>
システム上の問題に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファイルアップロード時の不具合 (正常に登録されない)</li> <li>・ 案内日付の間違い(テキストの修正)</li> </ul>

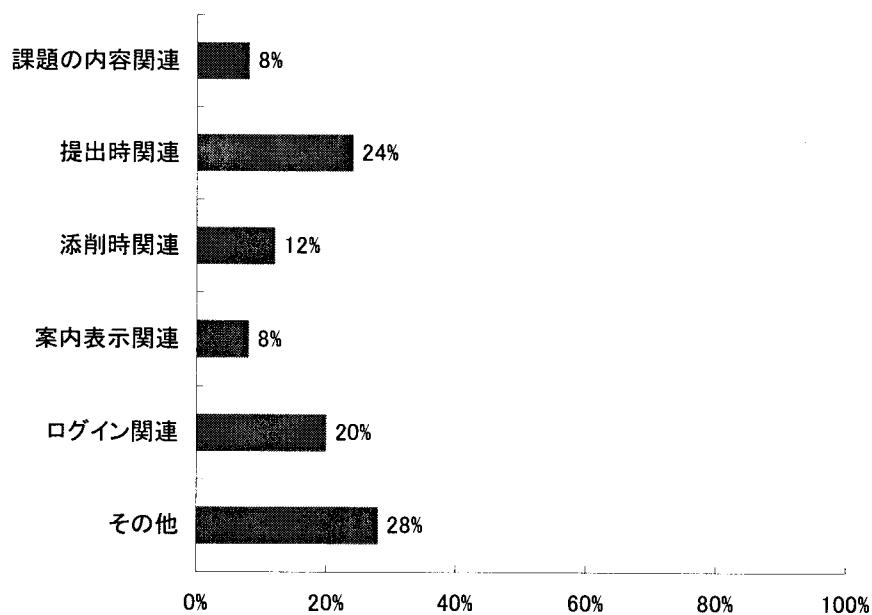


図 5-2. 問合せの種別比率

表 5-3. 運用実施項目の一覧

実施項目	実施内容
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム説明会 (1/28)</li> <li>・メールアドレス確認、ID&amp;パスワード送付、マニュアル作成</li> </ul>
問合せ対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・教材に関するもの</li> <li>・システム操作に関するもの</li> </ul>
学習進行案内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム操作上の注意点の案内</li> <li>・課題の提出期限の案内</li> <li>・成果発表の場への公開案内</li> <li>・添削要領の案内</li> <li>・その他</li> </ul>
データ登録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出ファイルの登録代行</li> </ul>
システムメンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース・メンテナンス(2/17)</li> </ul>

## 2) システム不具合対応

運用中にシステムの一部に発生した不具合に対し、速やかに改善対策を実施した。  
その詳細を以下に示すものとする。

### (1) 問合せ期日：2/16(木)、17(金)

不具合内容：□提出ファイルが登録できない

□添削ファイルをダウンロードしても自分のファイルではない

改善期日：2/17(金)

改善内容：添削ファイルアップロード時にデータベースへの登録処理に不  
具合があり以下の改善を行った。改善後、正常稼動を確認した。

□アップロードファイルの存在チェック処理の改修

□エラー処理の改修

### (2) 問合せ期日：3/9(水)

不具合内容：「講師からのお知らせ」においてスケジュールに合わない内容  
が発信された

改善期日：3/10(土)

改善内容：スケジュールマスタのテキストデータに間違いがあり、正確な  
日付を設定した。改善後、正常稼動を確認した。

## 6. システムに関する受講調査結果

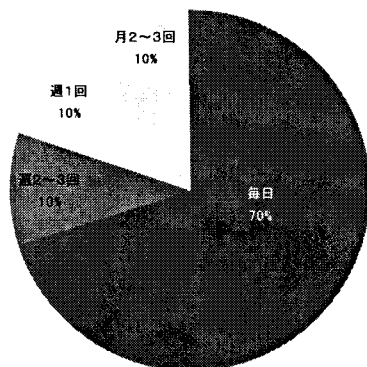
本システムの利用に先立ち行われたスクーリング時における受講生の事前アンケート結果と受講後のモニタリング時における事後アンケート結果は以下の通りである。

### 6-1. 利用者調査（事前）

受講前の事前アンケートにおいて、受講生のインターネット利用の現状について調査した。その結果、今回モニターとして参加された受講者は DCnet の利用者であることからインターネットの利用率は高く、学習を進める上でのファイルの交換なども問題なく進められるものと思われる。

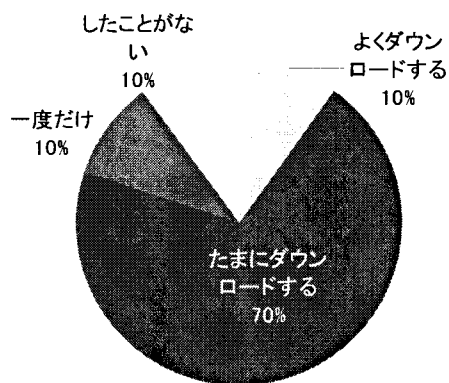
### 1)受講生のインターネット利用状況

受講生の7割が毎日インターネットを利用しており利用率は高い。



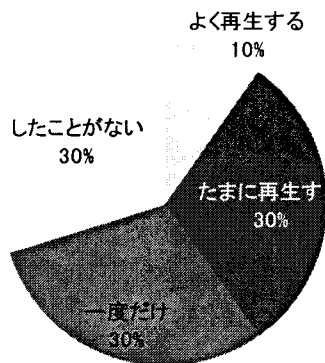
### 2)ファイルのダウンロード経験

ファイルのダウンロードの経験者は9割である。



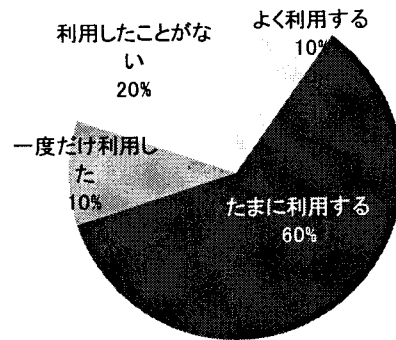
### 3)動画ファイルの再生経験

動画ファイル再生の経験者は7割である。



#### 4) フォーラムの利用経験

フォーラムの利用経験者は6割である。



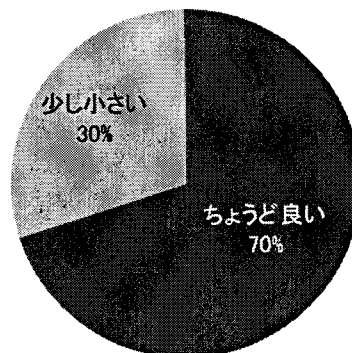
#### 6-2. 利用者調査（事後）

受講後のアンケートにおいて、システムの操作性、機能に関する調査をした。その結果、インターネットの利用には慣れてはいるもののシステムの操作方法や学習の進め方について、事前に十分な説明と案内方法の工夫が必要であると思われる。

また、「討論の場」において半数を超える方が、講師と意見交換や課題について討論したいとの要望を持っており、今後のコミュニケーション機能の活用方法に課題が残る。

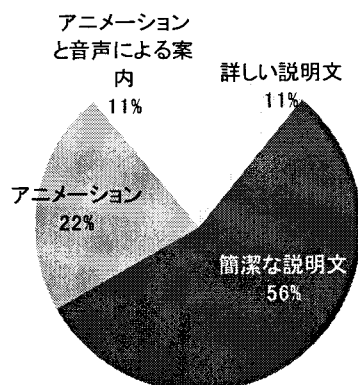
##### 1) 表示文字の大きさについて

7割の方がちょうど良いと答えている。



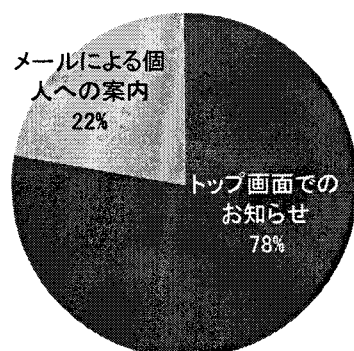
## 2)操作方法の説明について

画面の操作説明において約4割以上の方が現状より詳しい説明方法を求めている。



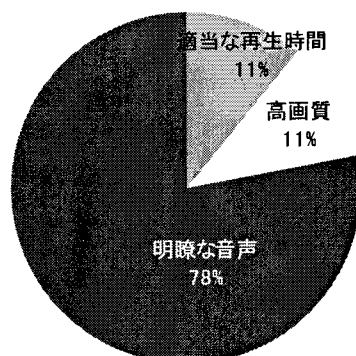
## 3)スケジュール案内の通知方法に関する要望について

2割を越える方が個別の案内を望んでいる。



## 4)ビデオ教材に対する要望について

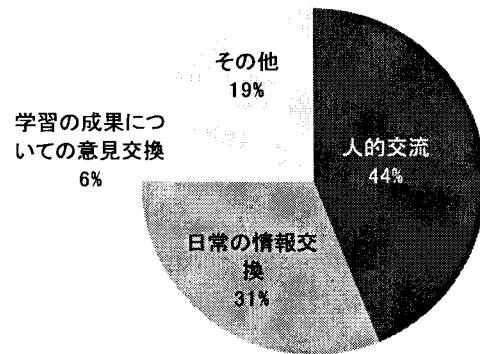
約8割弱の方が明瞭な音声を第1に望んでいる。





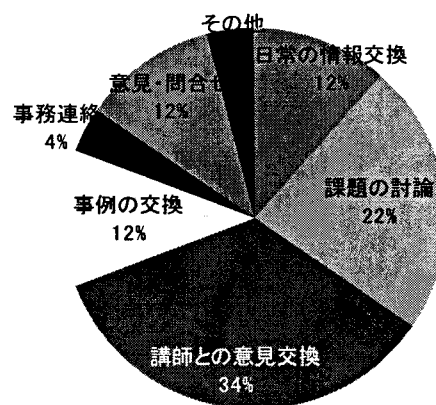
5)「討論の場」はどのような時に役に立ったか（複数回答）

人との交流や日常の情報交換に役に立ったという答えが7割を超える。



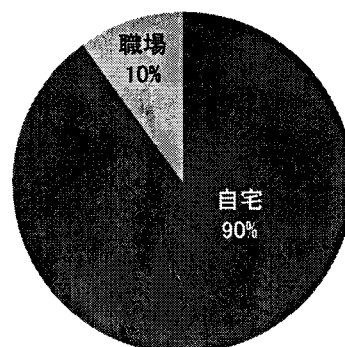
6)交流の場に何を期待するか（複数回答）

3割を超える方が講師との意見交換の場として活用したいと望んでいる。



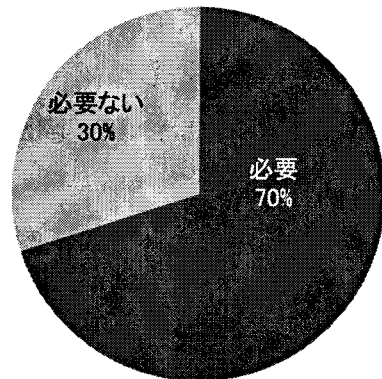
7)主な学習場所について

9割の方が自宅を学習の場としている。



8)事前説明会の必要性について

7割の受講生が、事前説明会が必要であるとしている。



## 7. 今回の成果と今後の課題

今回のシステム運用において試行した、動画教材の利用、コミュニケーション機能、データ管理機能等において、現在の DCnet が有する基本のインフラは、Web 学習システムの運用に関して十分活用できるものと思われる。今後、学習の目的に応じた学習システムの活用を検討することにより、研修の効率化と効果的な技能習得方法として大きく寄与するものと考えられる。

以下に、今後のシステム開発上の課題について挙げる。

### 1) システム操作上の課題

- ・ システムの操作性向上  
学習要領をより解りやすくするための説明方法（FLASH の検討）

### 2) 学習案内方法の課題

- ・ お知らせ機能の充実  
学習の進行案内やアドバイスについて管理者（講師）が随時アナウンスできる機能

### 3) システム機能上の課題

- ・ 重複登録防止機能  
ファイルアップロード時に、同一ユーザーのファイルの重複登録の防止機能（低速接続回線使用時に複数回クリックした時に稀に発生）
- ・ 課題の再提出機能  
救済措置として管理者（講師）が設定できる機能
- ・ 「討論の場」の表示方法  
DCnet フォーラムと同様に件名と内容を表示した掲示板形式の検討

### 第3部 委員からの提言

#### 1.Web 学習の可能性～添削講師としての関わりより～

日野 和子 委員

##### 1-1.認知症介護指導者の学習支援として

###### 1) 学習の機会・方法の支援

今回の認知症指導者への学習支援として、一番大きな成果としては、学習の機会と方法を得ることができたことにあると思われる。スクーリングのアンケートにもあるが、指導者の場合、自らの仕事の傍らで研修にかかる準備をしなければならず、養成研修修了後はなかなか新たな学習機会やあるいは情報を得ることが困難になってくる。一方でより効果的で実践につながる認知症介護研修を期待されており、自らの休みを使って近隣やあるいは遠方までスキルアップのために出掛ける方もある。

そうした状況下で、今回のような Web 学習の果たす意味は大きく、また学習方法についても、同じ認知症介護の指導者として共通する内容でのテーマ設定であったので、より具体的に学びを実践に行かせる内容であったと思われる。

###### 2) 情報の収集・共有

認知症介護指導者間でよく言われるのが、他県の状況や研修内容・講師等の情報が欲しいということである。研修については、都道府県によって研修期間や内容も随分幅があり、その内容については、研修を重ねていく中で、マンネリ化や、新たな展開が見えにくくなってくることもある。そうした際に、情報を提供したり、今回の取り組みの掲示板の中で一部見られたような悩みを共有したり、他県の情報をもらうことができることは、新たな発見につなげていけるものとなる。

###### 3) モチベーションのアップ

対象が同じ目的を持った指導者同士という点では、同じ課題を取り組みながら、お互いの視点の違いや切り口の違いに刺激を受けることができたようで、モニタリングアンケートにも見られていたが、改めて認知症介護指導者としての期待される役割の認識と、モチベーションのアップにつながった方が多かった。この点に関して、今回

は同じ目的を持ち、学習意欲もかなり高いメンバー同士のクローズした中でのやりとりだったが、対象が広範囲な場合は事情がまた異なってくると思われる。

## 1-2.Web 学習の可能性について～今回見えてきた改良点を踏まえて～

### 1) 対象者募集とスクーリングの重要性

Web 学習を進めていく上では、今回で言えば初回のスクーリングで、どれだけ具体的な操作方法や課題を学習していく段階や内容等を習得することができるかが、その後の学習意欲に大きく関わってくると思われるが、今回に関しては準備段階が非常にタイトだったこともあり、受講生には具体的にイメージが固まらなかった部分があった。そのまま段階的に進められていくことで、戸惑いが見られたことがあり、具体的な Web 学習としてのイメージが固まらないままに進んだ方もあった。

サポート体制として、パソコン操作上の対応と学習内容についてのサポートと双方共に、今回のようなトラブルの問い合わせのみでなく、あらかじめ想定される内容のものについては、Q & A 式の対応集や操作マニュアルの具体的なテキストも必要になってくると思われる。

### 2) 学習内容について

#### (1)学習期間と課題

6週間で3つの課題という設定での取り組みだったが、学習期間としては内容にもよるが、あまり長期期間になると、学習意欲の継続面で維持していくことが難しいと感じた。また課題の提出期間が今回は1週間に1課題のペースであったが、この点に関しては自由に学習時間の調整ができるとは言え、かなりハイペースだったようである。10日から2週間に1課題のペースで1つのテーマでの課題提出とし、添削をする場合は1週間あいだに挟む形で2ヶ月を1つの単位としてのものが、妥当なラインではないかと思われた。

#### (2)取り上げる学習テーマ及び教材と課題内容

今回は研究授業を取り上げ、映像コンテンツによる教材作成がされていたが、アンケートでも指摘されているように、映像コンテンツの時間が長時間にわたっており、かなりの負担感があったことが挙げられる。一方で映像コンテンツとしての教材利用は Web 学習の機能を生かした内容の核となる部分であり、時間と内容を圧縮

して短いものとしていけば、よいと思われる。

課題内容については、今回は添削講師とのやりとりで進められていたが、添削の方式だと、どうしても評価的なものを受講生としては求めるようになる。今回取り上げた研究授業やあるいは大きく認知症介護のケアについて、これが模範解答という類のものではないので、知識部分については添削機能で学習の度合いを自らが確認する程度で、その後については、お互いの成果物を公開し合い、それについて、意見交換したり、あるいは問題提起したりしながら、視点を広げていく作業ができればと思われた。具体的には、今回あまり活用されなかったが、ホームルームのような形でのテーマに沿ったディスカッションの場や、タイムリーなやりとりという意味では、自分のペースにあった学習課題とは別に、定期的なホームルーム(ディスカッション)等を、日時を決めて行うことができれば、演習形式のやりとりも可能性が開けてくるように思われる。

### 3) 教材開発の可能性

今回の Web 学習を通して、新たな学習システムの可能性を大いに感じた所であり、今後更なる改良を進め、成果物を蓄積すれば、新たな教材開発の方向も見えてくるように思われた。

## 2.Web 学習の有効活用のために～目的の明確化と学習展開の工夫～

舟越 正博 委員

Web 学習がもつ最大の利点は、遠隔地に所在する複数の受講者が学び(学習)を共有できることであり、これは集合研修、紙やメディアをベースとした一般的な通信教育では発揮できない特徴ともいえる。このたび実施した「Web 学習機能を使用した痴呆介護指導者学習支援事業(以下、「Web 学習」と略す。)において、受講者が提出した「学習課題の添削」を行った経験を踏まえ、提言する。

### 2-1.目的の明確化

このたびの Web 学習は、フォローアップ研修の一部を構成(代替)できる可能性を検討するために試行したとも理解できる。現行のフォローアップ研修は、演習を中心として受講者同士の刺激を利用しつつ、資質向上のための具体的な示唆を提供することを目的として行われている。Web 学習でもそれに近い環境を形成できる余地はあるが、受講者が Web 学習にアクセスできる時間帯(18 時以降が多い)や1 回に拘束可能な時間数、受講者の一般的な PC 環境やシステム開発費用などを勘案して、次のような目的を提案する。

#### 1) フォローアップ研修の事前学習

- (1) 受講者がもつ認知症介護や人材育成、業務改善等における「到達度」と「到達のための実施状況」を確認する。
- (2) 研修受講にあたって事前に学習すべき課題を提示し、さらに必要な「アドバイス」を提供する。

#### 2) フォローアップ研修の事後学習

- (1) フォローアップ研修において学んだことを「整理」し、必要な「アドバイス」を提供する。
- (2) フォローアップ研修後にもつ「課題の解決」や「目標の設定」を支援する。

#### 3) 指導者やそれ以外の受講希望者の自己学習、など

- (1) 受講者がかかえる「課題」の把握と解決のアプローチへの支援を行う。
- (2) 受講者が希望するであろう「スキルアップ」の支援を行う。

## 2-2.学習課題の設定上の留意点

### 1)受講者層を考慮する。

- (1) 受講者層とは、認知症介護の実務経験年数、所属種別、研修の企画や講師の経験年数などを想定することができる。

### 2)受講者の希望を考慮する。

- (1) 受講者が学習したいと特に意欲を示す課題を設定することによって、その効果はより高く期待できる。

## 2-3.添削の目的と方法

- 1) 学習課題の内容にかかわらず、受講者の考えについて正答であるか否かを吟味することは、認知症介護に関する学習では馴染みにくい。そのための基本的な知識を問う課題である場合を除き、添削というよりは「コメント(解説や補足説明、見解など)」や「アドバイス(助言)」等がふさわしいと考える。ただし、ここでは引き続き添削とする。

- 2) コメントやアドバイスを主旨として添削をする場合、その内容は単なる正否や激励、賛否ではなく、受講者の考えを的確に要約し、理由や方向性を示した上で、助長すべき点や別の観点からも検討すべき点、さらに受講者にとって、新しいまたは気づいていないであろう知見などを提示することが求められる。

これは受講者にとって最も率直な成果であると考えられる。そのため添削者(コメンテーター、アドバイザー等)には、視野の広い知識や技術、経験などが保持すべき能力であるといえる。

- 3) 同一の課題を検討する複数の受講者が、同様の目標達成を期待して学習する過程では、添削方法の統一性が必要となる。

ここでの統一性とは、添削者における記録の書式、視点、考え方の方向性、技



術などの共有である。これらは、添削者間で事前に検討し、受講者への対応に不合理な差異や不必要な混乱を招くことを防ぎ、かつ Web 学習の成果を最大化できる重要な要素となる。

#### 2-4. 学習効果の測定

- 1) 学習効果とは、受講者が得た成果とも換言することができる。その測定方法は  
大別すると、①効果測定のための課題（まとめ）を提示する ②アンケート調査  
を行う ③面接調査（面談や懇談）する、などが想定できる。
  
- 2) Web 学習では受講者と添削者等とは顔の見えない状態で関係が成立することが  
多いため、できるだけ対面して直接議論し、調査（モニタリングなど）できる機  
会も設定すべきである。このたびの Web 学習における受講者の意見もこれらの必  
要性を支持するものであった。対面調査では、出会うことの大切さだけでなく、  
通信では表現しきれない感情や意思の表明、新たな思考の発見なども期待でき  
ると考えられる。

### 3.Web 学習の可能性と限界～何ができて、何ができないのか～

中西 誠司 委員

驚くような書き出しではあるが、添削をしているときには「認知症の介護研修は Web 学習では難しいのではないか？」という感想を得た。しかし、これは私の頭が整理されていなかったためであろう。

全体の流れの中で「Web 学習の仕組み作り」は第一目的であったと理解しているが、「参加したモニターに対し、役立つ情報を多く提供したい」という思いもあり、私自身のこの事業に対する焦点がぼやけてしまった感じがある。つまり、私が添削しながら持った感覚は、Web 学習という仕組み自体の問題なのか、今回の課題の内容が不適切だったためなのか、が分からなくなっていたのである。

しかし、私が Web 学習について持ったこの印象は、この報告のテーマそのものである。まとめとなった最終回の委員会でも意見にあがったが、Web のシステムを理解した上で、Web 学習で「何ができて、何ができないのか」を探ることは重要だということである。

この観点から、私が感じた Web 学習の可能性と限界を以下にまとめたい。

#### 3-1.可能性として考えられたこと

##### 1) あるテーマに沿って意見交換することにより幅広い見識を得るような学習機会

今回、添削講師をしたのであるが、添削をしながら私自身が気づかされることも多くあった。この点から考えると、他の意見を見ながら自分の意見をまとめることで学習できることが多くあると思われた。Web 学習では多数の空間的に制約されず多くの参加者が期待できる。教材は、映像でも文章でも可能だと思われるが、一つのテーマを共有して、参加者が、掲示板のようなものに、意見を積み重ねていくようなことをすると、それを読むだけでも気づくことはあるし、また、意見を集約することで、受講生自身の意見を再構築するのに役立つのではないかと。

この場合は講師・受講生という形でなく、全体の意見のまとめる役(ファシリテーター、あるいは情報の整理係りといったイメージ)と参加者という形で進めることができると思われる。

さらに、これを発展させた形にすると、特定の時間を共有して、一つのテーマに

沿ってチャットで情報交換する部屋を設けることはできないだろうか。

## 2) スクーリングを併用した学習機会

今回の場合、チャットのようなリアルタイムの情報交換ではなかったため、話し合いの場のような情報交換ではなく、講師、受講生間で情報交換にタイムラグがあった(一旦提出されたものを添削講師がチェックして返信、それについて、受講生が質問し…といったやり取りをする形であった)。実際に今の形でグループワークのような話し合いをすることは難しいと考える。これを考えると、タイムラグがあっても、問題のないような情報の提供が望ましいと考えられた。たとえば、研修に向けての事前課題の出題である。話し合いは実際に研修の場面で行うとして、映像教材などでそれまでの準備をしておく、研修の時間が有効に使えて効果的なのではないだろうか。

## 3) 一方的な情報提供

テキストの内容を学習するような、たとえばテレビの教育講座のような形のものであれば、Web 学習で十分に情報提供できるのではないかと。仮に、内容についてわからないことがあれば、e-mail で質問できるようにしておけば、一般論から、受講生にとっての各個人の問題に取り組むきっかけともなえると思われる。

## 3-2.難しいと考えられたこと

### 1) グループワークのような情報交換

先ほども書いたが、並行に話し合いをしていくようなグループワークのような場面で、発言者のニュアンスを含むような場合、情報のやり取りが平面的(あるいは、訂正しにくい一方通行の繰り返し)になりがちな Web 学習では、誤解が生じるなどが考えられる。このため、不向きな面もあるのではないかと。

### 2) コンピュータに慣れていない対象者

専門家が当たり前、常識と思うようなことも、初心者にとっては難しい面がある。今回、講師として画面から提出物を添削したわけだが、「操作上これで合っているのか?」とコンピュータの基本的な操作に不安を覚えた。あまりにも基本的な問題であるが、実際に多くの方が Web 学習を使用する場合を想定すると、受講生には基

本的な操作方法の理解が必要だろうと思われる。また、スタッフ側の技術的なバックアップも今以上に必要になるのではないかとと思われる。

以上、紙面の都合上、説明内容が不十分な点もあったが、私の結論としては、可能性を探り、うまく使えば有効な学習の機会になる可能性があると考えます。

## 4.Web 学習の可能性～新たな学習の機会と情報の手段として～

諸見里 司 委員

### 4-1.はじめに

私は、痴呆介護研究・研修東京センターの第4期痴呆介護指導者養成研修修了生で、沖縄県の特別養護老人ホームにおいて生活相談員として勤務している。また平成14年度より沖縄県の痴呆介護指導者として、沖縄県の痴呆介護実務者研修の企画・運営、講義・演習の指導、施設実習の受け入れ等を担当している。

沖縄県においては、痴呆介護指導者が月1回程度定期的集まり、痴呆介護実務者研修のカリキュラムや授業内容の検討、勉強会などを実施しているが、その中でよく議論されるのは、どのようにして情報を収集したり、他県やセンターと情報交換をおこなったりするのかということである。

現状としては、痴呆介護指導者養成研修や痴呆介護指導者フォローアップ研修、その他の事業に参加した痴呆介護指導者が他県の痴呆介護指導者やセンタースタッフから情報を収集し、それを県に戻って他の痴呆介護指導者に連携するという方法をとっており、他地域のように痴呆介護実務者研修において、県を超えて相互に協力しあったり、情報を交換しあったりすることが困難な状況にある。

また、セミナーや講習会、研修等への参加についても地理的な要因等から制約があり、他地域と比較すると学習の場が限定されてしまうというのも現状である。

Web 学習は、そういった地理的な要因や時間的な要因などの影響を受けず、誰でもが希望すれば学習に参加できるという新しい学習形態であり、離島や僻地など様々な要因により学習の場が制約されている地域においても、他地域と同じように学習に参加できるというメリットがある。また、東京センター、大府センター、仙台センターの各期の痴呆介護指導者が、学習を通じて相互に交流し、ネットワークを形成することができるなどの多くの可能性がある。

### 4-2.添削を担当しての意見

今回の Web 学習では添削を担当する機会をいただいたが、その作業の中で気づいたこと、感じたことに以下のようなことがある。

ひとつは、添削を担当することは、担当者にとってもよい学習機会となるとともに、担当者の自己研鑽の動機づけとなるのではないかということである。

私自身、こういった形で課題に対する添削をおこなうのははじめての経験であり、モニターの方々の回答に対してどのように応えるか、情報を収集したり、関係者にアドバイスを受けて、文章の表現を工夫したりなど試行錯誤を繰り返しながら添削をおこない、そのことによって私自身も多くのことに気づき、学ぶことができた。また、添削終了後も他講師の方々の添削結果、モニターの方々の再提出課題の確認等を通して、今後も Web 学習を利用される方々に応えられるよう自己学習を続けたいという意欲の向上につながった。

Web 学習は利用者に対して学習の場を提供することを目的としているが、そこに関係する者にも大きな学習効果が得られるということから考えると、今後の Web 学習においても、痴呆介護指導者が課題の添削に参加できる機会を設ける必要性は高いと思われる。

そのためには、添削の形式や方向性のある程度統一するための取り決めや添削を担当する際の事前学習、十分な添削期間の確保、添削を担当する痴呆介護指導者がスーパーバイズを受けられるような仕組みづくりなどが必要と思われる。

いまひとつは、Web 学習のカリキュラムや使用する教材等を工夫することによって、興味や目的に応じた様々な学習方法の提供が考えられるということである。

今回の Web 学習では、フォローアップ研修で行われた模擬授業の一場面を教材として使用したが、各センターで開催されている公開講座や各センターで作成された教材用のビデオなどをアップロードして閲覧できるようにする、ひとつのテーマについて、複数の利用者がチャット形式で意見を交換するというような学習形態も可能と思われる。

また、認知症介護指導者養成研修や認知症介護指導者フォローアップ研修の事前・事後学習として Web 学習を活用していく、日々の自己研鑽のための学習ツールとして活用していくことも期待できる。

そのためには、より多くの痴呆介護指導者に Web 学習を知ってもらうための普及活動やパソコンに不慣れな痴呆介護指導者に対する利用支援(具体的には操作マニュアルや教材の概要説明などを含めたヘルプ機能の充実など)、実際に Web 学習を利用する痴呆介護指導者のニーズを取り入れた学習教材の開発、カリキュラムの構築などが必要と思われる。

#### 4-3. 今後の Web 学習の展望について

痴呆介護指導者の学習支援を目的とした Web 学習であるが、将来的には各都道府県単位で実施される認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修への活用や痴呆介護実務者研修等の修了生に対するフォローアップとしての活用、認知症ケアに携わるスタッフや介護者の方々への情報と学習の場の提供などが期待される。

そのためにも Web 学習の特性を生かした教材や学習方法、カリキュラムの開発、添削等の担当講師やスーパーバイザーの育成、Web 学習の普及活動等について今後も検討を重ねる必要がある。

## 5. 添削機能の活用～受講生、添削者協働による学習内容の立案・企画を～

中村 考一 委員

Web 学習に関して、研修内容の企画・立案を行い、添削者として参加した経緯を踏まえ、Web 学習の企画・立案と、添削者の役割、添削にあたっての課題について以下に考察する。

### 5-1. Web 上での添削作業を行って

まずは添削について考察する。添削作業の中で添削者から出てきた意見として、Web 学習の添削作業は難易度が高いという意見があった。Web 学習は、講師と受講生が直接相対せず、言語情報を主として交流するという性質を持っている。そのため、言語以外の情報伝達が難しく、チャット等でない限りやり取りの積み重ねの中でお互いの意見を理解していくという過程をたどりにくい。また伝えられる情報量がどうしても少なくなる。そのため、添削者は相手の理解の仕方がどのような傾向にあるかということが分からない中、また表情等の相手の反応も分からない中で、「このような表現で理解してもらえるだろうか、誤解がないだろうか」と思いながら、添削を行うことになる。また、誰かの意見を「添削する」ことができるほど、演習の企画・立案・実践について精通していないという考え、姿勢を添削者が持っており、それが難しいという感想につながっているものと考えられる。

上記のような特徴から考えても添削者と受講生ができるがきり濃密に意見を交換できるよう研修の枠組みの中に、討論の場や共同作業の場を設ける必要があるだろう。また、添削という表現は、上位下達のイメージがあり、場合によっては添削者が役割に取り組む際に萎縮してしまう可能性がある。加えて、研究授業は決められた答えを導き出すという性質が弱いことから、添削者については「コメンテーター」等に呼称を変更するという事が検討されるとよい。

### 5-2. 添削者が学べる事（添削者に必要なスキル）

モニタリングにおいても、添削講師から「添削するほうも勉強になった」という意見が出されたように、Web 学習において受講生の課題を添削するというプロセスには、



認知症介護指導者として、また現場のスーパーバイザーとしてのスキルアップにつながる要素が含まれていると考える。例えば Web の性質上、具体的で明瞭な文章表現をする、建設的な提案を行う、思考を促す投げかけを行うといったことを、参加型の対面による研修以上に意識せざるを得ない。また一般の研修と同様、研修生とのやり取りの中で添削者が考えの幅を広げることができる事もある。このような Web 学習の添削を通じて学べることは、同時に添削者にスーパーバイザーとして必要なスキルを修得する機会を提供することができると思う。以上を踏まえ、例えば Web 上でチーム編成を行い、添削を行うプロセスも研修のひとつとして組み込むシステムを構築できれば、Web 学習の活用の幅を広げる事ができるだろう。

### 5-3.添削者の可能性

以上を踏まえ、添削者として誰が適任かということについては、現在の段階では、痴呆介護指導者が有力であると思う。そしてもし必要であれば、Web 学習でコメンテーターとしてのスキルアップのための研修カリキュラムを作り、添削者を育成していくということを考えてもよいだろう。

### 5-4.添削作業のため必要な Web 学習企画者の配慮

次に企画について考察する。まず、Web 上での学習という特性から学習企画者が、添削作業を運営していくにあたって配慮すべき点としては、

- 1)学習企画者は添削者に添削のポイントを明確に示す、
- 2)添削の目的を明示する(特に研究授業においては受講者の持っている意見を引き出す事に主眼を置く、もしくは研修授業の実演者の授業をよりよいものにする、など焦点づけを明確にする)、
- 3)添削者のスタンスを示す(受講生の学習をサポートするためのコメンテーターという設定にすると添削のストレスは低いと考えられる)、
- 4)受講生とのやり取りの機会を必ず設ける、
- 5)添削者同士のやり取りのシステムを設ける、などが必要と考えられる。

さらに、Web 学習の受講生の中で、講義実演者、研修授業の参加者、添削者を、持

ち回りで役割交代しながら、研究授業のプロセスについて受講生だけで完結させるという枠組みを作る事も可能だろう。これにより、研修受講者間の凝集性を高める効果も期待できる。

#### 5-5.その他 Web 学習を企画しての感想

その他、Web 学習における演習(研究授業)の企画・立案については、受講生と演習企画者のやり取りが即時にまた簡易にできない中で課題が提示されるので、画面のデザインを含めた課題の提示の仕方、文章表現の分かりやすさに十分な配慮が必要である。それを補完する意味でも課題の内容等について受講生が疑問に思ったり、十分理解できなかつたりしたとき個別に確認できるシステムを準備しておくことが求められる。

研究授業においては、教材となる模擬授業のビデオ作成が難しいので、教材として効果が高く、かつ講師、受講生ともに教材として活用することに了承の得られる教材作成方法を検討する必要がある。

今回の研究授業のように課題を何段階かに分けるとき、課題ごとに添削者が変わるのは、受講生の視点の広がり形成するという意味ではよいが、添削の経緯を受講生・添削者双方が共通認識し、添削者が変わったことを明示しないと、課題によって意見が食い違い受講生を混乱させる可能性がある。授業改善案を作成する課題の場合、Web で実現可能な範囲で教材の変更も課題に含める、などが指摘される。

#### 5-6.フォローアップ研修の代替としては難しいという意見について

また、フォローアップ研修の代替としては難しいという意見が、委員会で議論になった。Web による学習は、即時のやり取りがないので、

- 1)自分では理解しているつもりが、実は行動がともなっていなかったという気づきなど、体験による学び・気づきを得にくい、
- 2)からだを通したコミュニケーションがないので、信頼関係(ネットワーク)を構築しづらい、
- 3)交換できる情報量が物理的にその場を共有している研修と比較して少ないといったことが影響しているものと考えられる。

ただし、よりよい演習の構築に向けた企画能力の向上という面では、一定の効果が得られたと考えてよいだろう。対応策としては、1)と2)については、研修の期間を長期間に取るなどの工夫が望まれる。

## 6.Web 学習の可能性～Web 機能を活かした指導者支援のツールとして～

遠藤 佐代子 委員

### 6-1.Web 学習の必要性について

大府センターで実施しているフォローアップ研修の関わりの中で、認知症介護指導者が研修するにあたり、試行錯誤を繰り返しながら非常に苦労を重ねてとりこんでいる現状がみえてきた。県によっては担当ごとに講座が割り振られ、誰とも相談することなくひとりで研修を担っている場合もある。指導者の支援としてフォローアップ研修を実施しているが、指導者のニーズを 100%満たすものにはなっていないし、またそうはなり得ず、対面学習として進めていくセンターにおける研修の限界を感じる。

いま、施設のみでなく在宅においても 24 時間 365 日の体制で高齢者を社会で支えていかなければならない体制づくりが求められている中で、長期間職場を離れることが非常に困難になってきている。そうした中で行われた今回の取り組みでは、時間的・距離的な障害を取り除くことができ、隙間的な時間を有意義に使うことで、仕事の合間に研修準備をする指導者の負担を軽減するために有効なものとなることが確認できた。

### 6-2.Web 学習の内容について

Web 学習の有効性について確認できたが、一方で、その効果を高めるために細かな点での検証・見直しも必要である。まず、学習への参加についてだが、Web 学習の対象として、PC およびその接続環境が整っていることが条件であった。大府センターでは、受講生の募集方法として全研修修了生を対象として参加の呼びかけをした結果 5 名の応募者があった。参加を見送った理由については今後も継続調査が必要かと思うが、参加条件がクリアできなかった指導者が多かったためと予想される。

教材については、90 分にわたる映像コンテンツを視聴することの負担、音声等の精度の問題など、受講生のモチベーションが高くなければ継続しづらいことは見直すべき点である。ある 1 視点のみからの映像で授業についての考察を行うのも難しいものがあった。そもそも研究授業の目的、観察の視点をどう焦点化させるかという点にもよるが、十分な広がりをもてなかったことは改善の余地があろう。

学習の進め方として、ステップごとの学習形態は学習効果を高めた。それぞれのステップで情報を共有化することが、次のステップの学習の助けになり、また方向性の調整にも役立っていた。

ただし、リアルタイムでの意見交換ができないために、ともすると一方向的なコミュニケーションに終始してしまい、添削者として、ストレスを感じることもあった。発信側の思いが正確に受信側に伝わっていないと、それに対するコメントが意味をなくしてしまう。さらに、発信側が自分の考えを説明し直してもタイトなスケジュールの中でその添削を返してもらうことができないまま、次のステップへ進み、次の段階でも前回と同じ内容のコメントをしてしまうことになり、もどかしさを感じることもあった。研究授業のような絶対的な解が無いものを対象に討議をする場合には、方向性のズレに対する調整など様々な配慮が必要である。たとえば、受講生の状況や問いかけに対する反応を的確につかみながら、双方向のコミュニケーションの中で指導内容を変化させていく、適切な時点で適切な情報を提供していくなどのしかけが必要であろう。

### 6-3.今後の展開について

今後の展開として、双方向性のあるコミュニケーションを補完するものとして、時間的制約は生じてしまうが、チャットのようなものを取り入れてはどうか。通信添削で、スクリーニング等がカリキュラムに組み込まれている様に、予め討議する日程をカリキュラム内に入れ、講師も参加して調整役を担えると良い。

また、コンテンツについても Web の特性を活かし充実させていきたい。具体的には、指導者のニーズとして

- a. 各県で実施している研修についての情報交換
- b. 認知症介護における最新の情報の提供
- c. テーマ別研修プログラムの提供
- d. コミュニケーションの場の提供

などがある。

センターにおける研修のデメリットは、常に研修内容が更新していき、前回の研修生の内容が最新のもでなくなってしまう点である。その点で、a や b、d などはセンターの研修では限界があり、常に情報を更新できる Web による学習に適している。また、その時に自分が欲しいものが選択できるという意味において c についても展開が

期待できる。

今回の研究でシステムの機能性は確認できた。さらに、コンテンツの見直しおよび充実によってまだまだ多くのことができるし、その可能性を探っていきたい。

## 第4部 全体総括－Web 学習の課題と今後の方向性

阿部 哲也 委員長

本章では平成 16 年度「Web 学習機能を使用した痴呆介護指導者学習支援事業」による成果を踏まえ、認知症介護指導者への支援ツールとしての Web 学習システムの有効性や課題について整理し、認知症介護教育への活用の可能性も視野に入れた今後の方向性についての提案を行う。

### 1.Web 機能を利用したマルチメディア教育システムの特性

現在、情報通信技術（IT 技術）の急速な進展により、教育分野においても IT 技術を利用したマルチメディア教育への取り組みが活発になっている。Web 機能もこれら情報技術の一機能であり、インターネットの普及に伴い急速に浸透しつつあるホームページサイトを意味している。

本研究のテーマは認知症介護指導者の学習支援手法として Web 機能による遠隔教育は適切かどうかということである。このテーマを検討する上で事前に踏まえておかなければならない点が幾つかある。今回の研究の主旨は、Web というインターフェースを通し認知症介護教育についてマルチメディア教材を活用した遠隔教育の可能性を検討することにある。つまり、Web 機能そのものはあくまでも教育教材の一要素であり、重要なのは認知症介護の教育におけるマルチメディア教材の有効な活用方法と、遠隔教育の効用と限界を検証することにある。そのためには教育における遠隔教育の特性とマルチメディア教材を活用した教育手法について整理しておく必要がある。

#### 1-1.遠隔教育とは

遠隔教育の歴史は存外古く、昭和 22 年に学校教育法により大学における通信教育が制度化され、通信添削型の通信教育が開始されている。動画や音声メディアを使用した遠隔教育は昭和 58 年の放送大学の設置を契機に普及し、その後通信技術の進展とともに一方向的な遠隔授業からテレビ会議など双方向通信の利用によるオンデマンド形式の遠隔教育が可能となった。そして現在、インターネット技術の発展と急速な普及によりコンピュータを利用したオンデマンド型教育が一般的になり、Web 機能を

利用した学習システムが開発されている。遠隔授業における経緯をみても分かるように遠隔教育の方法は、通信技術の発達や普及と密接に関連しており教育教材の種類や数もインターネット技術の普及によって革新的に変化してきている。

遠隔教育の利点は教育を受ける側や教育を行う側双方が、地理的、時間的な条件に制約されることなく均等な教育機会が保障されることや、教育対象者を限定せず知的資源を広く公開することができること、国際的な視点で教育効果を共有できることなどがあげられる。一方、欠点は協働作業による学習効果や技術習得、多人数による活発な討議による学習などには適していない点が考えられる。

## 1-2. マルチメディア教育システム

教育におけるマルチメディアの活用のねらいは、いわゆる教育におけるコミュニケーションや情報伝達の媒体として音声情報、動画情報、静止画情報、文字情報等の複数の媒体を利用することにより効果的な教育を行うことを目的とするものである。教育におけるマルチメディアの活用は、リアルタイムな遠隔講義への活用、教育効果を高めるための補助教材としての活用、復習や補習、Web におけるプログラムを利用した自動化機能を使用した予習などデマンド型自主学習への活用等が考えられる。

## 2. 本研究における課題

認知症介護教育における Web 機能を利用した学習支援方法の課題について整理すると以下の3点にまとめられる。

### 2-1. 集合型教育における限界と効用

認知症介護教育の目標は、現在の認知症介護の目的である認知症高齢者の自立支援を実践できる専門家の育成である。現在、認知症介護の普遍的な方法が確立されているとは言い難く、認知症介護教育と認知症介護研究は、同時に進行し双方が相補的に関連しながら発展の途上にあると考えられる。望ましい認知症介護の開発には、認知症高齢者一人一人の状態に応じた多用な介護実践情報の収集が必要であり、そのためには多くの介護実践家の情報交換の機会が重要と考えられる。



同様に、望ましい認知症介護教育とは、従来のように実証化された法則や唯一絶対の定理を画一的に付与することではなく、認知症高齢者一人一人の状況に即した介護実践の情報を交換し、討議し検討すること自体が効果的な教育方法であると考えられる。つまりこれからの認知症介護教育は多数の実践家が集合し、お互いの知識や経験を分かち合いながら双方の実践ノウハウを吸収しあうような学習形態が望ましいと考えられる。

しかし、このような集合型の教育形態は、その有効性とは逆に課題も多いことが指摘されている。例えば、集合型研修における参加者の情報や経験が、必ず研修参加者全てのニーズを満たすものであるという保証が難しいという点や、集合型研修の参加者は、時間的、地理的、学習場所の物理的条件に制約され、本来の目的である情報交換による多種多様性の確保が損なわれる点などの課題がある。

これらの課題に対して Web 機能を利用した学習支援システムに必要とされるものは、地理的、時間的な条件の如何に関わらず各地の認知症介護に関する実践事例や介護情報をより多く収集蓄積し、多くの教育対象者に対して発信提供を可能とする点である。

## 2-2.教育内容の妥当性

本研究事業において取り扱われた教育テーマは演習方式による学習効果が高いと考えられるテーマであった。そこから、Web による学習システムの学習テーマとしての妥当性に関する課題が提示され、Web 学習システムで取り扱う教材の内容について検討の必要性が指摘された。

おそらく Web による学習システムの教材として取り扱うテーマは、一方向的な知識伝達や定型化された内容に関するテーマが妥当であると考えられる。討議や情報交換、模擬実践、役割演技などグループ学習による学習の効果が期待されるものや、実技学習などの教育テーマは、Web による学習システムを主とした教育では学習効果の低下を招く可能性が予測される。これらのテーマはあくまでも集合型の研修で主に取り扱われるものであり、本学習システムはあくまでもその補助システムとして、事前準備や復習、振り返りなどに利用されることが妥当と考える。Web による学習システムを主とした教育内容は、認知症に関する基礎知識や、基礎理論、制度・施策など確定された情報や最新の情報に限定する方が望ましいといえよう。

## 2-3.教育効果の測定方法

教育の効果測定は、取り扱うテーマと関連しており、教育技法の学習のような複雑で高度なテーマについての効果測定は困難である。Webによる学習システムのテーマを知識や情報の学習に絞れば、学習度合いをWebの自動化機能を利用し採点を自動化することで、自己学習による自己評価も可能と考えられる。

Webによる学習システムを知識提供のための教育システムとして特化させ、自動化機能を強化した自己学習支援システムとして活用できれば、学習対象者の範囲を広げることが可能であり、それにより、さまざまな対象者に対して、時間や場所の制限がなく教育支援の機会を提供できるものになるといえる。

## 3.認知症介護教育における支援ツールとしての方向性

マルチメディアを活用した教育および遠隔授業の特性と本研究における検討事項を踏まえ、Web学習支援システムが認知症介護教育において果たす役割の方向性について提言する。

### 3-1.認知症介護指導者養成研修の支援

認知症介護指導者養成研修事業も4年が経過し、現在では全国の認知症介護指導者（以下、指導者）は約700名に増え、全国の都道府県等において認知症介護に関わる実践者への研修、教育、アドバイザーとして活躍している。指導者の役割は、各担当地域における認知症介護実践者の技術を、研修によって向上する事であり、そのための助言や教育、研修の企画を行うことである。現在、研修の講師や地域のアドバイザーとして地域の認知症介護を先導している指導者であるが、役割を円滑に遂行していく上でいくつかの課題が指摘されている。指導者研修は10週間という長期間にわたる研修ではあるが、研修期間外における継続的な教育支援は困難であり、研修前後の支援や継続研修などの新たな研修支援システムの確立が望まれている。

指導者へのWeb学習システムが果たす役割については、指導者研修前の事前知識の学習支援や、研修事業の事前理解、研修への動機付けや意識づけへの活用が想定される。Web機能による自主学習システムを利用し、認知症介護に関する基礎知識、基礎

理論、研修事業や施策などの情報の事前確認をサポートし研修受講前の準備促進が考えられる。

あるいは指導者研修修了後の復習や研修後の最新知識や情報の提供における活用が想定される。平成 16 年度より開始された指導者フォローアップ研修事業は 1 回に 30 名を対象とし、全国で 3 ヶ所、年に 2 回実施されている。指導者へのサポートはフォローアップ研修事業によって今後も実施される予定であるが、受講者定員、研修開催場所、実施回数などが限定されており、全ての指導者に対するフォローアップは困難であるという課題がある。更に集合型研修の効用と限界の特性もあり、フォローアップ研修以外のサポートシステムとして Web 機能を利用した遠隔教育システムが必要と考えられる。本研究でも明かとなったように、Web 機能を利用した学習システムが指導者フォローアップ研修をサポートに際しては、認知症介護や研修に関する意見交換、基礎知識や基礎理論、最新情報など知識の提供や学習に限定すれば、指導者への強力な支援ツールになると考えられる。

### 3-2. 認知症介護実践者研修の支援

指導者への支援ツール以外への活用としては、現在、認知症介護教育遂行において課題となっている認知症介護実践者研修の評価への活用が考えられる。認知症介護実践者研修における基礎知識や理論など知識伝達が学習の主目標になっているカリキュラムについて、テスト形式で自動採点できるような Web コンテンツを作成し、学習習熟度を自己評価してもらうことが考えられる。あるいは、指導者研修と同様に研修参加前の予備知識習得のための活用や、研修後の最新情報の提供などへの活用も考えられる。

### 3-3. 介護専門家への支援

認知症介護研修関係者以外の対象者に対する活用も望まれる。現在、グループホームの増加や、ユニットケアへの転換、小規模多機能サービスの開始など、認知症高齢者の増加にともない新しいサービスの形態が増加しつつある。このことは認知症介護現場におけるボランティアや新人職員の増加を促進し、ボランティアや新人職員への有効な認知症介護教育の必要性が高まることが予測される。そこで、新人職員やボランティアなど認知症介護の基礎的な知識が必要な対象者の自己学習システムとして、

Web 機能を利用した学習システムが有効であると考えられる。

今後、認知症介護は小規模型サービスが増加すると考えられるが、小規模型サービスは事業所の規模も小さく、経営効率を考慮しながら効果的な人材育成をすることが課題となる。小規模事業所における新人教育やボランティアの教育に Web 学習による自己学習システムを利用すれば、人材育成にかかるコストを抑制することが可能となるだろう。

### 3-4. 介護家族への支援

現在、認知症の診断は医師の診断によるものが主であるが、受診のきっかけは家族か介護者、ヘルパーによるものが多いと報告されている。早期の段階で家族や介護者の発見が行われれば、認知症の進行を抑制できる可能性が高く、家族や介護者の認知症に関する基礎知識やスクリーニング技術の向上は認知症の予防を促すと考えられる。認知症介護教育の点から考えると介護家族への認知症介護知識の普及や、スクリーニング技術の教育は、認知症の予防の視点からも重要な課題と考えられる。

介護家族の教育においても Web 機能による自己学習システムは有効であるといえる。例えば、家族が認知症高齢者の情報をチェック式でパソコン画面に入力すれば自動的に認知症の程度を診断し、その対応のアドバイスが表示されるような認知症のスクリーニングシステムとして利用するなど、認知症の知識習得や認知症介護の一般的対応方法の自己学習にも活用できる可能性を有している。

## 4. 最後に

以上、Web 機能による学習支援システムについて、遠隔教育、マルチメディア教育との関連性を整理し、Web 学習における課題として、集合型研修の利点を促進しその限界を補完する活用の方法、Web 学習システムに妥当な学習テーマの方向性、Web 学習システムにおける学習評価への活用方法について提案を行い、認知症介護教育における Web 学習システムの対象者別活用方法を提案した。

今後、Web 技術やマルチメディア教材を活用した遠隔教育は、ますます生涯学習の進展や、教育ニーズの高まりに応じて発展することが予想される。しかし、本研究の結果からも明らかになったとおり、これらの高機能な学習システムを有効に利用し、教育の効果を高め、万人の学習ニーズを満たすものになるためには、しばらくの期間

が必要であるだろう。それは認知症介護教育の分野についても同様であり、今後も本研究のような試行が繰り返され、課題を1つ1つ解消していく中で、教育者や学習者にとって使いやすいツールとして定着していくことが望まれる。本事業における学習支援システムの検証が、近い将来、質の高い認知症介護実践者の育成を促進し、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現に貢献できることを期待している。

「Web 学習機能を使用した痴呆介護指導者学習支援事業」  
委員名簿

委員

- 阿部 哲也\* 認知症介護研究・研修仙台センター
- 日野 和子 認知症介護研究・研修仙台センター
- 舟越 正博 北広島市高齢者総合ケアセンター 聖芳園
- 遠藤 佐代子 認知症介護研究・研修大府センター
- 丹下 孝史 認知症介護研究・研修大府センター
- 中西 誠司 老人保健施設 青い空の郷
- 諸見里 司 特別養護老人ホーム ありあけの里
- 中村 考一 社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
- 小野寺 敦志 社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

以上 委員 9名  
(内 委員長 1名を含む)  
\* 委員長

研究協力

- 羽鳥 敦 NEC ネクサソリューションズ(株)
- 倉岡 信之 NEC ネクサソリューションズ(株)
- 藤本 俊二 スタートコム(株)
- 古谷 真 スタートコム(株)
- 長竹 靖光 スタートコム(株)
- 蝦名 直美 日本大学大学院 文学研究科心理学専攻

報告書名

平成 16 年度老人保健健康増進等事業報告書  
(介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業)  
介護家族から専門職まで人材育成のための研修システムと教材開発に関する研究  
「Web学習機能を使用した痴呆介護指導者学習支援事業」  
報告書

発行元

社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター  
(旧 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター)  
TOKYO Dementia Care Research and Training Center  
〒168-0071  
東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
電話：03 3334 2173 FAX：03 3334 2718  
URL <http://www.dcnet.gr.jp/>

発行年月

平成 17 年 (2005 年) 3 月